

講義概要・授業計画

令和6年度
(2024)

高野山大学

科目目次
(大学院)

文学研究科修士課程 密教学専攻 (修了要件：30単位)

[博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
後期	火	1	92151	密教学講義(大)	北川真寛	2	8単位を超えて修了要件に 参加できない。	院-1
前期	月	3	91302	仏教学講義(大)	菊谷竜太	2		院-2
前期	月	2	91201	インド学講義(大)	徳重弘志	2		院-3
前期	水	5	93501	祖典演習A(大)【LS】	米田弘仁	2		院-4
後期	水	5	93551	祖典演習B(大)【LS】	米田弘仁	2		院-5

2) 主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁	
前期	木	3	94301	密教学特殊研究A(大)	川崎一洋	2	主要科目12単位必修	院-6	
後期	木	3	94351	密教学特殊研究B(大)	川崎一洋	2		院-7	
前期	金	1	95101	密教学特殊研究C(大)【LS】	Tドライブライン	2		院-8	
後期	金	1	95151	密教学特殊研究D(大)【LS】	Tドライブライン	2		院-9	
前期	火	3	92301	密教史特殊研究A(大)	北川真寛	2		院-10	
後期	集中	集中	97052	密教史特殊研究B(大)	岩崎日出男	2		院-11	
前期	月	2	91202	密教学演習A(大)	大柴清圓	2		院-12	
後期	月	2	91251	密教学演習B(大)	大柴清圓	2		院-13	
前期	水	2	93202	密教史演習A(大)	坂口太郎	2		院-14	
後期	水	2	93252	密教史演習B(大)	坂口太郎	2		院-15	
前期	月	3	91301	密教学講読A(大)	大柴清圓	2		院-16	
後期	月	3	91351	密教学講読B(大)	大柴清圓	2		院-17	
前期	火	2	92201	密教史講読(大)	木下智雄	2		院-18	
前期	木	1	94101	現代社会と宗教(大)	森崎雅好	2		社会人コースは4単位必修	院-19
前期	金	2	95201	密教と文化(大)	奥山直司	2		僧侶コースは4単位必修 ※事相研究I及びIIでそれぞれ 2単位以上修得すること	院-20
前期	月	4	91401	事相研究I-1(大)	佐藤隆彦	2			院-21
後期	月	4	91451	事相研究I-2(大)	佐藤隆彦	2			院-22
前期	木	2	94201	事相研究II-1(大)【LS】	Tドライブライン	2			院-23
後期	木	2	94251	事相研究II-2(大)【LS】	Tドライブライン	2	院-24		

3) 関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	2	92202	仏教学特殊研究A(大)	前谷彰	2		院-25
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究B(大)	前谷彰	2		院-26
前期	木	5	94502	仏教史特殊研究A(大)	岡田英作	2		院-27
後期	木	5	94552	仏教史特殊研究B(大)	岡田英作	2		院-28
前期	水	2	93201	仏教学演習A(大)	菊谷竜太	2		院-29
後期	水	2	93251	仏教学演習B(大)	菊谷竜太	2		院-30
前期	木	4	94402	仏教学講読A(大)	那須真裕美	2		院-31
後期	木	4	94452	仏教学講読B(大)	岡田英作	2		院-32
後期	集中	集中	97051	仏教学講読C(大)	平岡宏一	2		院-33
前期	火	3	92302	仏教史講読A(大)【LSO】	櫻木潤	2		院-34
後期	火	3	92351	仏教史講読B(大)【LSO】	櫻木潤	2		院-35

4) 共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	金	2	95203	密教実践法の研究A(大)【LS】	Tドライブライン	2		院-36
後期	金	2	95251	密教実践法の研究B(大)【LS】	Tドライブライン	4		院-37
前期	月	1	91101	仏教芸術の研究(大)	松長潤慶	2		院-38
前期	集中	集中	97001	宗教学宗教学史の研究(大)	山脇雅夫	3		院-39
前期	金	3	95301	アジア地域の宗教文化の研究(大)	南昌宏	2		院-40
後期	月	2	91252	比較宗教の研究(大)	森本一彦	2		院-41
後期	金	2	95252	現代社会と仏教の研究(大)	奥山直司	2		院-42

5) 修士論文

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	頁
通年	—	—	99001	修士論文(密教学)	大学院委員長	0		—
前期	—	—	99003	修士論文(密教学)(前期)	大学院委員長	0	7月提出許可者	—

文学研究科修士課程 仏教学専攻（修了要件：30単位）

[博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
後期	火	1	92151	密教学講義 (大)	北川 真寛	2	8単位を超えて修了要件に 参加できない。	院-1
前期	月	3	91302	仏教学講義 (大)	菊谷 竜太	2		院-2
前期	月	2	91201	インド学講義 (大)	徳重 弘志	2		院-3
前期	水	5	93501	祖典演習A (大) 【LS】	米田 弘仁	2		院-4
後期	水	5	93551	祖典演習B (大) 【LS】	米田 弘仁	2		院-5

2) 主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	2	92202	仏教学特殊研究A (大)	前谷 彰	2	主要科目12単位必修	院-25
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究B (大)	前谷 彰	2		院-26
前期	木	5	94502	仏教史特殊研究A (大)	岡田 英作	2		院-27
後期	木	5	94552	仏教史特殊研究B (大)	岡田 英作	2		院-28
前期	水	2	93201	仏教学演習A (大)	菊谷 竜太	2		院-29
後期	水	2	93251	仏教学演習B (大)	菊谷 竜太	2		院-30
前期	木	4	94402	仏教学講読A (大)	那須 真裕美	2		院-31
後期	木	4	94452	仏教学講読B (大)	岡田 英作	2		院-32
後期	集中	集中	97051	仏教学講読C (大)	平岡 宏一	2		院-33
前期	火	3	92302	仏教史講読A (大) 【LSO】	櫻木 潤	2		院-34
後期	火	3	92351	仏教史講読B (大) 【LSO】	櫻木 潤	2	院-35	
前期	木	1	94101	現代社会と宗教 (大)	森崎 雅好	2	社会人コースは4単位必修	院-19
前期	金	2	95202	仏教と文化 (大)	奥山 直司	2		院-20
前期	月	4	91401	事相研究 I-1 (大)	佐藤 隆彦	2	僧侶コースは4単位必修 ※事相研究 I 及び II でそれぞれ 2単位以上修得すること	院-21
後期	月	4	91451	事相研究 I-2 (大)	佐藤 隆彦	2		院-22
前期	木	2	94201	事相研究 II-1 (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-23
後期	木	2	94251	事相研究 II-2 (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-24

3) 関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	3	94301	密教学特殊研究A (大)	川崎 一洋	2		院-6
後期	木	3	94351	密教学特殊研究B (大)	川崎 一洋	2		院-7
前期	金	1	95101	密教学特殊研究C (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-8
後期	金	1	95151	密教学特殊研究D (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-9
前期	火	3	92301	密教史特殊研究A (大)	北川 真寛	2		院-10
後期	集中	集中	97052	密教史特殊研究B (大)	岩崎 日出男	2		院-11
前期	月	2	91202	密教学演習A (大)	大柴 清圓	2		院-12
後期	月	2	91251	密教学演習B (大)	大柴 清圓	2		院-13
前期	水	2	93202	密教史演習A (大)	坂口 太郎	2		院-14
後期	水	2	93252	密教史演習B (大)	坂口 太郎	2		院-15
前期	月	3	91301	密教学講読A (大)	大柴 清圓	2		院-16
後期	月	3	91351	密教学講読B (大)	大柴 清圓	2		院-17
前期	火	2	92201	密教史講読 (大)	木下 智雄	2		院-18

4) 共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	金	2	95203	密教実践法の研究A (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-36
後期	金	2	95251	密教実践法の研究B (大) 【LS】	Tドライブライン	4		院-37
前期	月	1	91101	仏教芸術の研究 (大)	松長 潤慶	2		院-38
前期	集中	集中	97001	宗教学宗教学史の研究 (大)	山脇 雅夫	3		院-39
前期	金	3	95301	アジア地域の宗教文化の研究 (大)	南昌 宏	2		院-40
後期	月	2	91252	比較宗教の研究 (大)	森本 一彦	2		院-41
後期	金	2	95252	現代社会と仏教の研究 (大)	奥山 直司	2		院-42

5) 修士論文

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	頁
通年	—	—	99002	修士論文 (仏教学)	大学院委員長	0		-
前期	—	—	99004	修士論文 (仏教学) (前期)	大学院委員長	0	7月提出許可者	-

文学研究科博士後期課程（修了要件：12単位）

[密教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	3	94351	密教学特殊研究 A (大)	川崎一洋	2	※密教特殊演習4単位を含 め、12単位以上を履修しな ければならない。(複数回 履修可)	院-6
後期	木	3	94351	密教学特殊研究 B (大)	川崎一洋	2		院-7
前期	金	1	95101	密教学特殊研究 C (大) 【LS】	T.ドライトライン	2		院-8
後期	金	1	95151	密教学特殊研究 D (大) 【LS】	T.ドライトライン	2		院-9
前期	火	3	92301	密教史特殊研究 A (大)	北川真寛	2		院-10
後期	集中	集中	97052	密教史特殊研究 B (大)	岩崎日出男	2		院-11
前期	月	2	91202	密教学演習 A (大)	大柴清園	2		院-12
後期	月	2	91251	密教学演習 B (大)	大柴清園	2		院-13
前期	水	2	93202	密教史演習 A (大)	坂口太郎	2		院-14
後期	水	2	93252	密教史演習 B (大)	坂口太郎	2		院-15
前期	月	3	91301	密教学講読 A (大)	大柴清園	2		院-16
後期	月	3	91351	密教学講読 B (大)	大柴清園	2		院-17
前期	火	2	92201	密教史講読 (大)	木下智雄	2		院-18
前期	木	2	94202	密教特殊演習 A-1 (大)	佐藤隆彦	2		院-43
後期	木	2	94252	密教特殊演習 A-2 (大)	佐藤隆彦	2		院-44
前期	火	2	92203	密教特殊演習 C-1 (大)	佐藤隆彦	2		院-45
後期	火	2	92252	密教特殊演習 C-2 (大)	佐藤隆彦	2		院-46
前期	月	5	91501	密教特殊演習 D-1 (大)	松長潤慶	2		院-47
後期	月	5	91551	密教特殊演習 D-2 (大)	松長潤慶	2		院-48
前期	月	1	91102	密教特殊演習 E-1 (大)	佐藤隆彦	2		院-49
後期	月	1	91151	密教特殊演習 E-2 (大)	佐藤隆彦	2		院-50
前期	木	5	94501	密教特殊演習 F-1 (大)	土居夏樹	2		院-51
後期	木	5	94551	密教特殊演習 F-2 (大)	土居夏樹	2		院-52
前期	火	4	92401	密教特殊演習 G-1 (大)	櫻木潤	2		院-53
後期	火	4	92451	密教特殊演習 G-2 (大)	櫻木潤	2		院-54

[仏教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	2	92202	仏教学特殊研究 A (大)	前谷彰	2	※仏教特殊演習4単位を含 め、12単位以上を履修しな ければならない。(複数回 履修可)	院-25
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究 B (大)	前谷彰	2		院-26
前期	木	5	94502	仏教史特殊研究 A (大)	岡田英作	2		院-27
後期	木	5	94552	仏教史特殊研究 B (大)	岡田英作	2		院-28
前期	水	2	93201	仏教学演習 A (大)	菊谷竜太	2		院-29
後期	水	2	93251	仏教学演習 B (大)	菊谷竜太	2		院-30
前期	木	4	94402	仏教学講読 A (大)	那須真裕美	2		院-31
後期	木	4	94452	仏教学講読 B (大)	岡田英作	2		院-32
後期	集中	集中	97051	仏教学講読 C (大)	平岡宏一	2		院-33
前期	火	3	92302	仏教史講読 A (大)	櫻木潤	2		院-34
後期	火	3	92351	仏教史講読 B (大)	櫻木潤	2		院-35
前期	木	4	94401	仏教特殊演習 A-1 (大)	大学院委員長	2		院-55
後期	木	4	94451	仏教特殊演習 A-2 (大)	大学院委員長	2		院-56
前期	水	1	93101	仏教特殊演習 B-1 (大)	菊谷竜太	2		院-57
後期	水	1	93151	仏教特殊演習 B-2 (大)	菊谷竜太	2		院-58

講 義 概 要
授 業 計 画

科目名	密教学講義(大)						学期	後期
副題	密教学の思想				授業方法	講義	担当者	北川真寛
ナンバリング	D-01-230	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 I

授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標

密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画

1. ガイダンス・密教総論
2. インド・チベット密教
3. アジアの密教
4. 日本密教
5. 神仏習合（・修験道）
6. 密教の聖典（1）—『大日経』—
7. 密教の聖典（2）—『金剛頂経』（・『理趣経』）—
8. 密教の聖典（3）—『菩提心論』・『釈摩訶衍論』—
9. 密教の曼荼羅（1）—胎藏曼荼羅—
10. 密教の曼荼羅（2）—金剛界曼荼羅—
11. 密教の成仏論
12. 密教の仏身論
13. 密教の灌頂
14. 期末試験と解説
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30分）。・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60分）。

テキスト

講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

①高神覚昇『密教概論』（大法輪閣、1989年）、②金岡秀友『密教の哲学』（講談社学術文庫、1989年）、③勝又俊教『密教入門』（春秋社、1991年）、④松長有慶『密教』（岩波新書、1991年）など。

学生に対する評価

試験（55%）、講義参加の積極性（45%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な密教の思想・用語を理解できる。
- (B) 専門的な密教の思想・用語を理解できる。
- (A) 専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。
- (S) 上記(A)を踏まえて密教の思想を体系的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

ICTを活用した講義である。

科目名	仏教学講義(大)							学期	前期
副題	仏教学の思想				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-02-231	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容① 南アジア
3. 仏教の伝達と受容② 西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③ 東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④ 東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教① ブッダの生涯
8. 初期仏教② ブッダの思想
9. 初期仏教③ 仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教① アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教② 部派における律の違い
12. 部派仏教③ 部派における思想的違い
13. 大乘思想の起源① 僧院生活と大乘思想
14. 大乘思想の起源② 聖典と仏像
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

①馬場紀寿『初期仏教—ブッダの思想をたどる』(岩波新書)、2018 年、②「仏教の思想」2・3・4(角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③グレゴリー・ショベン・小谷信千代訳『大乘仏教興起時代 インドの僧院生活(新装版)』、春秋社、2018 年

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
 (B) 仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
 (A) 部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
 (S) アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	インド学講義(大)						学期	前期
副題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	徳重弘志
ナンバリング	D-01-232	実務経験の有無	無	関連DP	密1, 仏1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれているが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることが重要である。この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

授業の到達目標

・初期仏教や大乘仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. インドにおける仏教の歴史（1）：初期仏教
3. インドにおける仏教の歴史（2）：部派仏教・大乘仏教
4. インド初期密教（1）：密教の萌芽
5. インド初期密教（2）：密教の形成期
6. インド初期密教（3）：『大日経』の先行経典
7. インド中期密教（1）：『大日経』
8. インド中期密教（2）：『理趣経』・『理趣広経』
9. インド中期密教（3）：『初会金剛頂経』
10. インド後期密教（1）：父タントラ
11. インド後期密教（2）：母タントラ・不二タントラ
12. チベットの密教（1）：前伝仏教期
13. チベットの密教（2）：後伝仏教期
14. チベットの密教（3）：宗派の概説
15. チベットの密教（4）：近代の仏教

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（60分）。 ・授業後に毎回宿題を課すので、次回までに小レポートとして提出すること（120分）。

テキスト

・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022年（小堀南岳書店で購入） ・杉木恒彦、On the Chronology of the Buddhist Tantras, 2022年（論文のため、コピーを配布する）

参考書・参考資料等

・高橋尚夫 他編『初期密教 一思想・信仰・文化一』、春秋社、2013年 ・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016年 ・松長有慶 編『インド後期密教』(上・下)、春秋社、2005・2006年

学生に対する評価

レポート（70%）、毎回の授業で課す小レポート（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教、大乘仏教、密教の関係を正確に理解できている。
 (B) インドやチベットにおける密教経典の分類法を正確に理解できている。
 (A) 主要な密教経典の特徴を正確に理解できている。
 (S) インド・チベット密教史の流れを正確に理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された小レポートに関しては、次回の授業において解説を行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・調査学習を取り入れた科目である。

科目名	祖典演習A(大)							学期	前期
副題	『声字実相義』を読む					授業方法	講義	担当者	米田弘仁
ナンバリング	D-01-233	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師空海の著作である『声字実相義』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて真言宗伝統の訓詁を批判的に読むことによって深く内容を理解すること、大乘仏教の思想との比較を通じて空海の思想の特異性を理解すること、言語哲学というジャンルの中でこの書を見たばあいにかなる位置を占めるものであるのか理解することを目的とする。

授業の到達目標

『声字実相義』の本文をスラスラと読めるようになること。表層的な理解に終わることなく、一文一句、出典を確認しながら空海がいかなる経緯を経てその理解に至ることができたのかを確認しつつ正しく内容が理解できるようになること。

授業計画

1. 空海の諸著作の紹介。
2. 『十卷章』の編纂過程、四声点・声訓みの解説。
3. 日本における仏教学・漢文学の歴史。
4. 真言宗における伝統教学の歴史についての解説。
5. 仏教における言語観の概説①（三科百法における声・字の位置づけ）。
6. 仏教における言語観の概説②（『成唯識論』の説）。
7. 仏教における言語観の概説③（『大日経疏』の説）。
8. 序分講読（叙意①、テキスト p. 33）
9. 序分講読（叙意②、テキスト pp. 33-34）
10. 正宗分講読（釈名、「声字実相義」各別釈、テキスト p. 34）
11. 正宗分講読（釈名、六離合釈①、テキスト p. 34）
12. 正宗分講読（釈名、六離合釈②、テキスト p. 35）
13. 正宗分講読（釈体義、引証①、テキスト pp. 35-37）
14. 正宗分講読（釈体義、引証②、テキスト p. 37）
15. 正宗分講読（釈体義、五大皆有響、テキスト p. 38）

準備学習(予習・復習)・時間

予習は講義当日の範囲の素読を練習しておくこと（60分）。復習は当日の講義範囲のノートを作成すること（60分）。

テキスト

高野山大学編『十卷章』（有限高野で購入）

参考書・参考資料等

小田慈舟『十卷章講読』（高野山出版社）。図書館にて内容を確認しておくこと。

学生に対する評価

素読ができるかどうか（30%）、内容が理解できているかどうか（30%）、講義において提示した出典の文献を原文で確認できるかどうか（40%）。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本文の素読ができること。
- (B) 参考書を用いて事前に本文の内容のあらすじをつかめていること。
- (A) 本文の内容を批判的に読む（なぜそのように訳せるのかその意識を探る）姿勢ができていること。
- (S) 自身で出典を検索して、実際に他の資料との比較を通じて原文を深く読みこむ技術が習得されていること。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中においてその質問・意見を取りあげてそのことについて考察する。

その他

授業のはじめに受講者全員に一人ずつ割り当てて本文を読んでもらうため、必ず事前に読みの練習をしておくこと。

科目名	祖典演習B(大)						学期	後期	
副題	『声字実相義』を読む				授業方法	講義	担当者	米田弘仁	
ナンバリング	D-01-234	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師空海の著作である『声字実相義』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて真言宗伝統の訓詁を批判的に読むことによって深く内容を理解すること、大乘仏教の思想との比較を通じて空海 of 思想の特異性を理解すること、言語哲学というジャンルの中でこの書を見たばあいにかなる位置を占めるものであるのか理解することを目的とする。

授業の到達目標

『声字実相義』の本文をスラスラと読めるようになること。表層的な理解に終わることなく、一文一句、出典を確認しながら空海がいかなる経緯を経てその理解に至ることができたのかを確認しつつ正しく内容が理解できるようになること。

授業計画

1. 正宗分講読 (釈体義、十界具言語、テキスト pp. 38-40)
2. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色①、テキスト pp. 41-43)
3. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色②、テキスト pp. 41-43)
4. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色③、テキスト pp. 44-47)
5. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色④、テキスト pp. 44-47)
6. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑤、テキスト pp. 44-47)
7. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑥、テキスト pp. 44-47)
8. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑦、テキスト pp. 44-47)
9. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、能迷亦能悟、テキスト p. 47)
10. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、内外依正具①、テキスト pp. 47-48)
11. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、内外依正具②、テキスト pp. 47-48)
12. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、法然随縁有①、テキスト pp. 48-51)
13. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、法然随縁有②、テキスト pp. 48-51)
14. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、法然随縁有③、テキスト pp. 48-51)
15. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、法然随縁有④、テキスト pp. 48-51)

準備学習(予習・復習)・時間

予習は講義当日の範囲の素読を練習しておくこと (60分)。復習は当日の講義範囲のノートを作成すること (60分)。

テキスト

高野山大学編『十卷章』(有限高野で購入)

参考書・参考資料等

小田慈舟『十卷章講読』(高野山出版社)。図書館にて内容を確認しておくこと。

学生に対する評価

素読ができるかどうか (30%)、内容が理解できているかどうか (30%)、講義において提示した出典の文献を原文で確認できるかどうか (40%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本文の素読ができること。
- (B) 参考書を用いて事前に本文の内容のあらすじをつかめていること。
- (A) 本文の内容を批判的に読む (なぜそのように訳せるのかその意識を探る) 姿勢ができていないこと。
- (S) 自身で出典を検索して、実際に他の資料との比較を通じて原文を深く読みこむ技術が習得されていること。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中においてその質問・意見を取りあげてそのことについて考察する。

その他

授業のはじめに受講者全員に一人ずつ割り当てて本文を読んでもらうため、必ず事前に読みの練習をしておくこと。

科目名	密教学特殊研究A(大)							学期	前期
副題	胎蔵曼荼羅の構造と理論					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	D-01-235	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

はじめに「曼荼羅とは何か？」をインド密教の歴史とともに解説し、弘法大師・空海が日本に伝えた胎蔵曼荼羅・金剛界曼荼羅の両部曼荼羅のうち、『大日経』に説かれる胎蔵曼荼羅を取り上げ、その図像の解析をおこないながら、そこに象徴される思想を読み解く。

授業の到達目標

密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画

1. いろいろな曼荼羅を見てみよう
2. 密教の歴史と曼荼羅
3. 曼荼羅とは何か？①
4. 曼荼羅とは何か？②
5. 『大日経』概説
6. 『大日経』が説く胎蔵曼荼羅
7. 胎蔵曼荼羅の図像の発展
8. 中台八葉院
9. 蓮華部院
10. 金剛手院
11. 遍知院と持明院
12. 釈迦院と文殊院
13. 虚空蔵院、地藏院、除蓋障院
14. 外金剛部院の神々①
15. 外金剛部院の神々②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等

田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンドラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) / 田中公明『インド密教史』(春秋社) など

学生に対する評価

試験・レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 曼荼羅とは何かを、インドの密教史の流れとともに説明できる。
- (B) 胎蔵曼荼羅の全体構造を把握し、胎蔵曼荼羅を構成する諸尊について図像学の立場から説明できる。
- (A) 胎蔵曼荼羅を『大日経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。
- (S) 胎蔵曼荼羅について、新たな視点から問題点を指摘し、それに対して適切な資料を用いて独自の解釈を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊研究B(大)							学期	後期
副題	金剛界曼荼羅の構造と理論					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	D-01-236	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

両部曼荼羅のうち、『金剛頂経』に説かれる金剛界曼荼羅について、その図像を解析しながら、そこに象徴される思想を読み解く。日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本のほか、インドやチベットの金剛界曼荼羅についても紹介し、さらに、金剛界曼荼羅から発展した後期密教の曼荼羅にも触れてみたい。

授業の到達目標

密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画

- 『金剛頂経』概説
- 『金剛頂経』と曼荼羅
- 金剛界曼荼羅の構造
- 金剛界五仏
- 十六大菩薩①
- 十六大菩薩②
- 四波羅蜜菩薩と八供養菩薩
- 四摂菩薩と賢劫尊
- 外金剛部の神々
- 六種曼荼羅の図像表現の方法
- 「降三世品」「遍調伏品」「一切義成就品」の曼荼羅の特徴
- 日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本
- インドの金剛界系遺品とチベットの金剛界曼荼羅
- 後期密教の曼荼羅①
- 後期密教の曼荼羅②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等

田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンドラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) / 田中公明『インド密教史』(春秋社) など

学生に対する評価

試験・レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 金剛界曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
- 金剛界曼荼羅を『金剛頂経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。
- 『金剛頂経』と金剛界曼荼羅が密教史の上で果たした役割を説明できる。
- 金剛界曼荼羅について、新たな視点から問題点を指摘し、それに対して適切な資料を用いて独自の解釈を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊研究C(大)							学期	前期
副題	『理趣釈』を読む(前半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	D-01-237	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

この授業では、不空訳『理趣経』と『理趣釈』を読み、さらに空海の『理趣経』に対する考え方を『理趣経開題』等から学ぶ。『理趣釈』に対する代表的な注釈書としての元広の『理趣経愚解鈔』(5巻)と果宝の『理趣釈秘要鈔』(12巻)を重要な箇所を読み、事相・教相の両側面から『理趣釈』を考察する。授業は『理趣釈秘要鈔』に沿って進む。日本における伝統的な『理趣経』の理解を通じて、真言密教の僧侶に不可欠な学問を探求する。

授業の到達目標

漢文読解力、密教経典への知識、事相・教相の理解を深める。

授業計画

1. 『理趣経』と『理趣釈』について
2. 弘法大師の『理趣経開題』について
3. 五秘密について
4. 『理趣釈秘要鈔』第1巻①
5. 『理趣釈秘要鈔』第1巻②
6. 『理趣釈秘要鈔』第2巻①
7. 『理趣釈秘要鈔』第2巻②
8. 『理趣釈秘要鈔』第3巻①
9. 『理趣釈秘要鈔』第3巻②
10. 『理趣釈秘要鈔』第4巻①
11. 『理趣釈秘要鈔』第4巻②
12. 『理趣釈秘要鈔』第5巻①
13. 『理趣釈秘要鈔』第5巻②
14. 『理趣釈秘要鈔』第6巻①
15. 『理趣釈秘要鈔』第6巻②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『理趣釈』、『理趣経開題』等、『理趣経愚解鈔』、『理趣釈秘要鈔』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『弘法大師全集』、『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
 (B) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
 (A) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
 (S) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。この講義の内容は後期に続くため、「密教学特殊研究D(大)」を続けて受講することを推薦する。

科目名	密教学特殊研究D(大)							学期	後期
副題	『理趣釈』を読む(前半)					授業方法	講義	担当者	T.ド ライトリン
ナンバリング	D-01-238	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

この授業では、不空訳『理趣経』と『理趣釈』を読み、さらに空海の『理趣経』に対する考え方を『理趣経開題』等から学ぶ。『理趣釈』に対する代表的な注釈書としての元広の『理趣経愚解鈔』(5巻)と梶宝の『理趣釈秘要鈔』(12巻)を重要な箇所を読み、事相・教相の両側面から『理趣釈』を考察する。授業は『理趣釈秘要鈔』に沿って進む。日本における伝統的な『理趣経』の理解を通じて、真言密教の僧侶に不可欠な学問を探求する。

授業の到達目標

漢文読解力、密教経典への知識、事相・教相の理解を深める。

授業計画

1. 『理趣釈秘要鈔』第6巻①
2. 『理趣釈秘要鈔』第6巻②
3. 『理趣釈秘要鈔』第7巻①
4. 『理趣釈秘要鈔』第7巻②
5. 『理趣釈秘要鈔』第8巻①
6. 『理趣釈秘要鈔』第8巻②
7. 『理趣釈秘要鈔』第9巻①
8. 『理趣釈秘要鈔』第9巻②
9. 『理趣釈秘要鈔』第10巻①
10. 『理趣釈秘要鈔』第10巻②
11. 『理趣釈秘要鈔』第11巻①
12. 『理趣釈秘要鈔』第11巻②
13. 『理趣釈秘要鈔』第12巻①
14. 『理趣釈秘要鈔』第12巻②
15. 『理趣経』と弘法大師

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『理趣釈』、『理趣経開題』等、『理趣経愚解鈔』、『理趣釈秘要鈔』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『弘法大師全集』、『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
 (B) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
 (A) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
 (S) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「密教学特殊研究C(大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	密教史特殊研究A(大)						学期	前期	
副題	南山学道の研究と実践				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	D-01-239	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。そのため南山では、現在でも「勸学会」や「月並問講」などの法談論議が行われ、学問と修行の道場として側面を有している。本講義では、それら南山に伝えられた教学を学ぶだけでなく、実際の間講がどのように行われているのかを体験することで、南山学道に対する理解を深めることを目的とする。そのため受講者は、各論題を選択し発表を行う。

授業の到達目標

高野山の教学を学び、問講を体験することを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されて、現代につながってきたのかについて理解するとともに、南山教学の特徴を説明できる力を身につけ、実践できるようにする。

授業計画

1. ガイダンス・総論—学道とは何か—
2. 弘法大師の著作
3. 弘法大師の教え—即身成仏—
4. 弘法大師の教え—法身説法—
5. 高野山の歴史と地理
6. 壇上伽藍と奥之院
7. 高野山の学道概説
8. 高野山の論義 (1) —綵画形像—
9. 高野山の論義 (2) —一門普門—
10. 高野山の論義 (3) —三密双修—
11. 高野山の論義 (4) —一事六度—
12. 高野山の論義 (5) —模擬問講体験—
13. 高野山の論義 (6) —受講者発表—
14. 高野山の論義 (7) —受講者発表—
15. 高野山の論義 (8) —受講者発表— 総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業計画に記載されたテーマについて辞書などで調べておくこと (30分)。・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること (120分)。・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと (60分)。

テキスト

・北川真寛『はじめての「弘法大師と高野山のおしえ」入門』(セルバ出版、2022年)を講師が一括で用意する。・常用経典

参考書・参考資料等

・『宗義決撰集』(『真言宗全書』巻19、統真言主全書刊行会、1935年)・小田慈舟訳『宗義決撰集』(『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社、1936年)・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

講義内での発表 (55%)、ディスカッション等の講義への参加の積極性 (45%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論義に引用されている典故を指摘し、語註を付した上で、本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
 (B) 上記 (C) を踏まえた上で、論義の内容を正確に理解している。
 (A) 上記 (B) を踏まえた上で、それぞれの論題が設定された理由を考察することができる。
 (S) 上記 (A) を踏まえ、各論題の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・論義を体験するため、受講者は得度修了者 (もしくは前期の内に得度を行う者) に限る。尼僧も可。・特に勸学会に出仕する者、既に出仕した者で、論義について学びたい者の受講を望む。・発表担当者を決めて、該当論義についての個人、またはグループ発表を行い、質疑応答も実施する。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、勸学会などに参画している教員が、学侶の立場から南山教学や論義の内容を解説、ならびに体験を指導し、特に真言宗の学侶を目指す者にとって必須の教学を身につけさせる。

科目名	密教史特殊研究B(大)						学期	後期	
副題	『不空三蔵表制集』から考察する唐代密教				授業方法	講義	担当者	岩崎日出男	
ナンバリング	D-01-240	実務経験の有無	無	関連DP	1・2・3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『不空三蔵表制集』は不空三蔵及びその弟子と唐朝との間で取り交わされた公文書を集成したものである。この文献を読み考察することによって、国家(唐朝・皇帝)と密教(不空三蔵と弟子達)とがどのような関係を持っていたのかを理解する。具体的には、肅宗・代宗皇帝と不空三蔵との関係、不空三蔵が推し進めた密教宣布のための方法と実践、不空三蔵以後の密教の状況の三点について学習し理解する。また、上記の学習と理解を通して国家(唐朝・皇帝)において密教のどのようなことが認められ評価されたのかを理解する。

授業の到達目標

国家(唐朝・皇帝)と密教(不空三蔵と弟子達)とがどのような関係を持っていたのかを知り、唐代密教の歴史と特徴を説明できるようになる。

授業計画

1. ガイダンス 授業方法の説明と評価方法の説明及び不空三蔵以前の密教 1 善無畏三蔵の密教とその布教
2. 不空三蔵以前の密教 2 金剛智三蔵の密教とその布教
3. 『不空三蔵表制集』巻1 「謝恩賜香陳情表一首」大正52、827
4. 『不空三蔵表制集』巻1 「請搜訪天下梵夾修葺翻譯制書一首」大正52、828
5. 『不空三蔵表制集』巻1 「請大興善寺置灌頂道場墨勅一首」大正52、829
6. 『不空三蔵表制集』巻1 「請每載置灌頂道場墨勅一首」大正52、830
7. 『不空三蔵表制集』巻2 「謝贈故金剛三蔵官號等表一首」大正52、833
8. 『不空三蔵表制集』巻2 「請捨衣鉢助僧道環修金閣寺制書一首」大正52、834
9. 『不空三蔵表制集』巻2 「請太原號令堂安像淨土院抽僧制書一首」大正52、837
10. 『不空三蔵表制集』巻3 「三朝所翻經請入目錄流行表一首」大正52、839～40
11. 『不空三蔵表制集』巻3 「謝恩許新翻經論入目錄流行表一首」大正52、840
12. 『不空三蔵表制集』巻4 「加開府及封肅國公制一首」大正52、845
13. 『不空三蔵表制集』巻4 「三蔵和上臨終陳情辭表一首」大正52、846
14. 『不空三蔵表制集』巻5 「請續置功德使表一首」大正52、853
15. 『不空三蔵表制集』巻6 「往五臺山修功德辭謝聖恩表一首」大正52、858 まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に学習する表制(事前に指定)を読み、内容の凡そを理解しておく(70分)。事後学習として授業で考察した表制について、その内容が密教と国家・布教の方法と実践・不空以後の状況の三点の内どれに該当する表制かを確認しておく(30分)。

テキスト

『不空三蔵表制集』六巻(『大正新脩大蔵経』巻52)

参考書・参考資料等

『国訳一切経』和漢撰述部・護教部五、「代宗朝贈司空大辯正大廣智三蔵和上表制集」大東出版社
『新アジア仏教史7中国Ⅱ隋唐 興隆・発展する仏教』第6章密教の伝播と浸透」佼成出版社

学生に対する評価

発表(60%) レポート(40%)で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を意味の疎通した現代語訳することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

この授業は事前学習が重要であり、それ無しでは成立しないので十分に学習しておく必要がある。

科目名	密教学演習A(大)						学期	前期	
副題	『菩提心論』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	D-01-241	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師が真言宗の僧侶に学習することを課した必須の論書である『菩提心論』の内容を理解する。前期は、まずテキスト上の問題があり、伝統的に誤読・誤解されている冒頭一段落について学ぶ。また『菩提心論』の作者・成書時期などについて、最新の研究成果を学ぶ。行願段・勝義段・三摩地段で構成される『菩提心論』の本文において、前期は行願段と勝義段を学習する。

授業の到達目標

『十卷章』本『菩提心論』の訓読の誤りを知り、正確な読解を身に着ける。最新の研究成果を踏まえた上で、『菩提心論』の全体の構成を把握する。二乗と顕教の修行法では即身成仏することができないことを理解する。

授業計画

1. 『菩提心論』の主題・副題
2. 「大阿闍梨云」について
3. 『菩提心論』における序文と目録の存在
4. 『菩提心論』の作者・龍猛菩薩造について
5. 序文：二つの発菩提心・魔宮震動・勝快樂
6. 序文：求菩提者発菩提心修菩提行
7. 行願段：利益
8. 行願段：安楽
9. 勝義段：一切法無自性
10. 勝義段：声聞の四諦法・縁覚の十二因縁法
11. 勝義段：顕教の三劫成仏
12. 勝義段：『華嚴経』所説の五十二位に修行階梯
13. 勝義段：大悲為根本
14. 勝義段：『秘藏宝鑰』第六・七・八・九住心との関係
15. 勝義段：五相成身觀と第十・九・八・七住心

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓校注『校注菩提心論』大遍照院(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

『十卷章』高野山大学出版部、1941年

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。テキストの〔解説〕を通して、『菩提心論』の内容を理解することができること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『菩提心論』の構成を学術的に説明することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。行願段・勝義段の主旨を把握することができること。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。五相成身觀と第十・九・八・七住心との対応について理解することができること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

学期末試験はペーパーテストで行う。金剛界の結縁灌頂を受けていることが望ましい(毎年秋に壇場伽藍金堂にて行われる)。むしろ伝法灌頂を受けている者は構わない。

科目名	密教学演習B(大)						学期	後期	
副題	『菩提心論』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	D-01-242	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師が真言宗の僧侶に学習することを課した必須の論書である『菩提心論』の内容を理解する。後期は密教の即身成仏に直結する三摩地段について学習する。密教の悟りの内容とは何かを金剛界三十七尊の出生を通して知る。三摩地段に説かれる①阿字観、②三密行、③五相成身観、④合蓮華と満月輪、の四つの「菩提心の三摩地法」について理解を深める。

授業の到達目標

『十卷章』本『菩提心論』の訓読の誤りを知り、正確な読解を身に着ける。なぜ即身成仏に発菩提心が不可欠であるかを理解する。五相成身観の観想法を深く理解し、自身の行法に生かすことができるようになる。

授業計画

1. 三摩地段：普賢大菩提心・三種金剛薩埵
2. 三摩地段：金剛界三十七尊（五仏・四波羅蜜菩薩）
3. 三摩地段：金剛界三十七尊（十六大菩薩）
4. 三摩地段：金剛界三十七尊（十二供養菩薩）
5. 三摩地段：自性身と受用身・自受用身と他受用身
6. 三摩地段：阿字観（第一段階・入智）
7. 三摩地段：阿字観（第二段階・纒見者）
8. 三摩地段：阿字観（第三段階・常見者）
9. 三摩地段：阿字観（第四段階・廓周法界）
10. 三摩地段：五相成身観（第一相・達達菩提心）
11. 三摩地段：五相成身観（第二相・修菩提心）
12. 三摩地段：五相成身観（第三相・修金剛心）
13. 三摩地段：五相成身観（第四相・証金剛身）
14. 三摩地段：五相成身観（第五相・仏身円満①）
15. 三摩地段：諸仏加持（仏身円満②）

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓校注『校注菩提心論』大遍照院（アマゾンで購入）

参考書・参考資料等

『十卷章』高野山大学出版部、1941年

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。テキストの〔解説〕を通して、『菩提心論』の内容を理解することができること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『菩提心論』のテキスト上・読解上の問題点を学術的に説明することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。自性身と自受用身、自受用身と他受用身の違いを理解し、金剛界三十七尊の出生の意味を理解することができる。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。五相成身観を正確に理解することができること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

学期末試験はペーパーテストで行う。金剛界の結縁灌頂を受けていることが望ましい(毎年秋に壇場伽藍金堂にて行われる)。むろん伝法灌頂を受けている者は構わない。

科目名	密教史演習A(大)						学期	前期	
副題	「史学研究法の習得と史的認識の形成」				授業方法	演習	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D-25-243	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本演習では、歴史学の研究方法を学ぶとともに、『東大寺円照上人行状』中の精読を通して、史料読解力を高める。また、自己の研究テーマを定めて、先行研究の検討や研究報告を行ない、歴史的な問題意識と研究方法を体得する。さらに、レポートの執筆を通して、独創的な修士論文・博士論文を執筆するための準備に取り組んでいく。

授業の到達目標

①歴史学における史料批判の手法を、具体的な史料読解に即して体得できるようになる。②自己の研究テーマを明確に設定し、鋭敏な史的認識に即して史実を立体的に組み立てる素地を養う。③明晰な文体や周到な史料操作、これらを具備した論文を執筆する前提を整える。

授業計画

- ガイダンス（前期演習の方針の打ち合わせ、関係文献の調査方法）
- 史学研究法の習得①
- 史学研究法の習得②
- 史学研究法の習得③
- 史学研究法の習得④
- 史学研究法の習得⑤
- 受講生による研究報告① 先行研究の検討
- 『東大寺円照上人行状』中の精読①
- 『東大寺円照上人行状』中の精読②
- 『東大寺円照上人行状』中の精読③
- 『東大寺円照上人行状』中の精読④
- 『東大寺円照上人行状』中の精読⑤
- 『東大寺円照上人行状』中の精読⑥
- 受講生による研究報告② 研究発表
- 夏期休暇中の研究活動に向けての指導（図書館での調査指導）

準備学習(予習・復習)・時間

①事前学習として、テキスト・参考書・関係論文を毎回読み、研究法・史料に關係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分）。②読解した文献の要点をノートに整理すること（80分）。③自身の研究テーマについて史料や先行研究を調査し、問題を考察しておくこと（90分）。

テキスト

①受講生が作成する資料、②中塚明『歴史家の仕事 人はなぜ歴史を研究するのか』（高文研、2000）※入手方法は教員が指示、③東大寺教学部編『円照上人行状』（東大寺図書館、1977）※コピーを配布。

参考書・参考資料等

①久野修義「中世寺院の僧侶集団」（『日本中世の寺院と社会』塙書房、1999。初出1988）、②横内裕人「続・中世東大寺律儀復興史小考」（野呂靖ほか編『東アジア仏教思想史の構想』法蔵館、2023）

学生に対する評価

前期・後期の研究レポート（60%）、演習時の取り組み（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中世史料の基本的な読解能力を会得している。
 (B) 中世史料を読解し、先行研究の内容を適切に把握できる。
 (A) 自己の研究テーマを設定し、関係史料の収集・読解や、先行研究への有効な批判を行なうことができる。
 (S) 強固な実証的基盤の上に独自の見解を打ち立て、明晰な文体や周到な史料操作を具備したレポートを執筆できる。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による研究レポートの執筆にあたっては、担当教員がテーマに即して個別に対応する。

その他

受講生は、担当教員が金剛三昧院・西南院で行なっている古文書調査にも参加すること。本演習は、史料の予復習や研究報告の準備、教員や他の受講生との積極的な討論など、全体的にアクティブ・ラーニングが求められる。水準は高いので、安直な姿勢の大学院生は履修しないこと。

科目名	密教史演習B(大)						学期	後期	
副題	「史学研究法の習得と史的認識の形成」				授業方法	演習	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D-25-244	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本演習では、歴史学の方法を学ぶとともに、『花園天皇日記（花園院宸記）』元亨2年（1322）条の精読を通して、史料読解力を高める。また、自己の研究テーマを定めて、先行研究の検討や研究報告を行ない、歴史的な問題意識と研究方法を体得する。さらに、レポートの執筆を通して、独創的な修士論文・博士論文を執筆するための準備に取り組んでいく。

授業の到達目標

①歴史学における史料批判の手法を、具体的な史料読解に即して体得できるようになる。②自己の研究テーマを明確に設定し、鋭敏な史的認識に即して史実を立体的に組み立てる素地を養う。③明晰な文体や周到な史料操作、これらを具備した論文を執筆する前提を整える。

授業計画

1. ガイダンス（後期演習の方針の打ち合わせ、研究指導）
2. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読①
3. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読②
4. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読③
5. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読④
6. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑤
7. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑥
8. 受講生による研究報告① 研究発表
9. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑦
10. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑧
11. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑨
12. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑩
13. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑪
14. 受講生による研究報告② 研究発表
15. 今後の研究に向けての指導（図書館での調査指導）

準備学習(予習・復習)・時間

①事前学習として、テキスト・参考書・関係論文を毎回読み、研究法・史料に關係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分）。②読解した文献の要点をノートに整理すること（80分）。③自身の研究テーマについて史料や先行研究を調査し、問題を考察しておくこと（90分）。

テキスト

①受講生が作成する資料、②村田正志校訂『史料纂集 花園天皇宸記』第2（続群書類従完成会、1984）※入手方法は教員が指示。

参考書・参考資料等

①岩橋小弥太『花園天皇』（吉川弘文館、1962）、②坂口太郎・芳澤元「花園天皇関係史料・研究文献目録稿」（『花園大学国際禅学研究所論叢』第2号、2007）

学生に対する評価

前期・後期の研究レポート（60%）、講義時の取り組み（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中世史料の基本的な読解能力を会得している。
 (B) 中世史料を読解し、先行研究の内容を適切に把握できる。
 (A) 自己の研究テーマを設定し、関係史料の収集・読解や、先行研究への有効な批判を行なうことができる。
 (S) 強固な実証的基盤の上に独自の見解を打ち立て、明晰な文体や周到な史料操作を具備したレポートを執筆できる。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による研究レポートの執筆にあたっては、担当教員がテーマに即して個別に対応する。

その他

受講生は、担当教員が金剛三昧院・西南院で行なっている古文書調査にも参加すること。本演習は、史料の予復習や研究報告の準備、教員や他の受講生との積極的な討論など、全体的にアクティブ・ラーニングが求められる。水準は高いので、安直な姿勢の大学院生は履修しないこと。

科目名	密教学講読A(大)						学期	前期	
副題	『三教指帰』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	D-01-245	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『聾警指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解説する。

授業の到達目標

『聾警指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。偽作説のどこが誤りであるかを把握する。駢儷文の文章構造を理解できるようになる。十韻詩に使われている音韻技巧と、守られている音韻の規則を理解する。

授業計画

1. 『聾警指帰』と『三教指帰』・『三教指帰』の真偽問題の経緯。
2. 『聾警指帰』と『三教指帰』の序文・駢儷文の特徴。
3. 両『指帰』の本文比較①対偶・訂正。
4. 両『指帰』の本文比較②音韻・表現。
5. 両『指帰』末尾の十韻詩の比較。音韻の病と技巧。
6. 『三教指帰』の濟暹師偽作説の誤りについて。
7. 再偽作説の誤り①文字。
8. 再偽作説の誤り②音韻。
9. 再偽作説の誤り③意味内容。
10. 『三教指帰』を読む①鼈毛先生論：鼈毛の風貌・教養・蛭牙の人となり。
11. 『三教指帰』を読む②鼈毛先生論：兎角の要請と鼈毛の応答。
12. 『三教指帰』を読む③鼈毛先生論：世間の悪・人格を磨くべき事・蛭牙の品行に対する叱責。
13. 『三教指帰』を読む④鼈毛先生論：行動規範の説示・忠孝の実践・医工と学問の勧め。
14. 『三教指帰』を読む⑤鼈毛先生論：重用されて高官となるべきこと・妻を娶り友人と宴をする楽しさ。
15. 『三教指帰』を読む⑥鼈毛先生論：蛭牙に立身出世を諭す・蛭牙が鼈毛に屈する・兎角の賛辞。

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの〈返り点〉の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの〈書き下し文〉と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓『聾警指帰と三教指帰 一空海大師真作の証明—』大遍照院(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂有勝『三教指帰 性盡集 日本古典文学大系』岩波書店、1965年。福永光司『空海 三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年。

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。『三教指帰』の白文に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

『三教指帰』を読むは、『聾警指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	密教学講読B(大)						学期	後期	
副題	『三教指帰』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	D-01-246	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『聾瞽指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解説する。

授業の到達目標

『聾瞽指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。偽作説のどこが誤りであるかを把握する。駢儷文の文章構造を理解できるようになる。十韻詩に使われている音韻技巧と、守られている音韻の規則を理解する。

授業計画

- 『三教指帰』を読む⑦虚亡隠士論：虚亡の批判と聾毛の懇請。
- 『三教指帰』を読む⑧虚亡隠士論：方術・道術の開示。
- 『三教指帰』を読む⑨虚亡隠士論：高潔を保ち、高禄と女色から離れるべき事。
- 『三教指帰』を読む⑩虚亡隠士論：神薬の服用・効用。
- 『三教指帰』を読む⑪虚亡隠士論：仙術による長寿・聾毛の謝辞。
- 『三教指帰』を読む⑫仮名乞児論：仮名の生い立ち・外見・ある人の難詰①。
- 『三教指帰』を読む⑬仮名乞児論：ある人の難詰②・仮名の反論。
- 『三教指帰』を読む⑭仮名乞児論：写懐詩・仮名の書・仮名が兎角の館に到る。
- 『三教指帰』を読む⑮仮名乞児論：聾毛と虚亡の論戦・仮名と聾毛の問答・仮名と虚亡の問答。
- 『三教指帰』を読む⑯仮名乞児論：観無常賦（無常・身体・美人）。
- 『三教指帰』を読む⑰仮名乞児論：観無常賦（家族・友人・若き男女・貴賤）。
- 『三教指帰』を読む⑱仮名乞児論：観無常賦（地獄と救い無き事・生前に精進すべき事）。
- 『三教指帰』を読む⑲仮名乞児論：聾毛らの問絶と説法の要請・生死海賦（生死海に溺れる者）。
- 『三教指帰』を読む⑳仮名乞児論：生死海賦（生死海に溺れる者を魚類と鳥類に譬える）。
- 『三教指帰』を読む㉑仮名乞児論：大菩提の果・聾毛らの謝辞。

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの〈返り点〉の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの〈書き下し文〉と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓『聾瞽指帰と三教指帰 一空海大師真作の証明—』大遍照院(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂有勝『三教指帰 性盡集 日本古典文学大系』岩波書店、1965年。福永光司『空海 三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年。

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

『三教指帰』を読むは、『聾瞽指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	密教史講読(大)							学期	前期
副題	中院流の歴史				授業方法	講義	担当者	木下智雄	
ナンバリング	D-01-247	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

密教は、印度・中国・日本と伝わり、1200年以上脈々と受け継がれてきた。 釈尊や弘法大師の祖師伝のみならず、それ以後の高僧たちの伝記を学ぶことは、宗教者として欠かせない視座を獲得する。本講義では、高野山で多くの僧侶が修行し、実際に修法される中院流の歴史について、時系列をたどりながら、現在に到るまでの重要な人物について講義を行う。

授業の到達目標

・中院流の歴史と重要人物について学習し、宗学の立場から密教の流伝を説明できるようになる。 ・ 副点付きの漢文が読めるようになる。 ・ 史料批判について学び、歴史学の立場から、検証できるようになる。

授業計画

1. 概論（講義の進め方、参考文献紹介等）と予習方法について
2. 付法・持持の八祖（大日～空海）について
3. 入唐八家について—東密と台密の分流—
4. 野沢根本十二流の概説①—広沢流—
5. 野沢根本十二流の概説②—小野流—
6. 中院流の縁由について①—無空律師の離山と祈親上人の再興—
7. 中院流の縁由について②—明算大徳伝—
8. 中院流の分派について①—中院流四方（引撰院方・心南院方・大案院方・智莊院方）—
9. 中院流の分派について②—中院流八方（宝性院方・総持院方・東南院方・龍光院方）—
10. 中院流の大成について—宥快法印と宝性院院家相承—
11. 中院流の流布について①—浄厳和尚の分派と真言律—
12. 中院流の流布について②—成蓮院真源上綱と中院本流—
13. 中院流の流布について③—真別処妙瑞と有部律—
14. 中院流の流布について④—明治以後の相伝—
15. これまでの講義の振り返りと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、指定した参考文献に目を通し、(60分) 専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。(30分) 事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。(90分)

テキスト

講師が配布資料を用意する。 梅尾祥雲『真言宗の宗史』、高野山出版社、2008年（書店で購入） ※品切れの場合は、該当箇所をコピーで配布する。

参考書・参考資料等

・大山公淳『中院流の研究』東方出版 ・松長有慶『密教—インドから日本への伝承』中公文庫 ・懐英『檢校明算阿闍梨伝』、維宝『南山中院真言秘密諸祖伝譜』（『続真言宗全書』32巻） ・『紀伊統風土記』（『続真言宗全書』38巻） ・『高野山先哲灌頂記録』（『続真言宗全書』41巻） 他

学生に対する評価

期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流の人物伝について、参考書を読み上げることができ、用語の説明ができる。
 (B) 中院流の人物伝について、『続真言宗全書』等の漢文が訓読でき、本文内容の説明ができる。
 (A) 中院流の人物伝について、複数の文献史料を比較検討することができる。
 (S) 中院流の歴史について、問題意識をもって論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・伝授科目ではないが、已灌頂者・加行満了者の受講が望ましい。 ・学部との同時開講科目であるので、学部生の学習補助（予習や復習の手引き）を行ってほしい。 ・必要に応じて、簡単な発表資料を作成してもらいたい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての気構えについて、高僧の人物伝を通じて、宗教的実践の重要性を認識させる。

科目名	現代社会と宗教(大)						学期	前期
副題	密教とスピリチュアルケア				授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	D-10-248	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

この講義では、密教の世界観をベースとしたスピリチュアルケアの援助論について講義をします。スピリチュアルケアが提唱されるようになった背景には、死について真剣に向き合おうとする臨床現場からの要請があったためです。病気だけでなく戦争、災害などで大切な人を喪うといった重大な危機的体験によって、私たちは生きることそのものに意味を見出すことができず、死を考えざるを得ない状況に追い込まれることもあります。この講義では、仏教・密教の教えに触れながら、「ケアすること」について考えたいと思います。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの理解を深める。

授業計画

1. ガイダンス
2. 仏教の世界観
3. 密教の世界観
4. 喪失の悲しみ
5. 悲嘆の過程①
6. 悲嘆の過程②
7. 悲嘆の過程③
8. 悲嘆の過程④
9. 病とスピリチュアルケア①
10. 病とスピリチュアルケア②
11. 病とスピリチュアルケア③
12. 自殺防止とスピリチュアルケア①
13. 自殺防止とスピリチュアルケア②
14. 生死問題（安楽死と生殖医療）とスピリチュアルケア
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと（90分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教・密教の世界観の基本的な知識を身につけている。
- (B) スピリチュアルケアを理解するための基本的な知識を身につけている。
- (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上でスピリチュアルケアの概念を理解している。
- (S) 現代の社会問題について、スピリチュアルケアの視点から捉えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	密教と文化(大)／仏教と文化(大)						学期	前期	
副題	密教・仏教の学びを实践に (1)国際交流				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D-01-249	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

社会のグローバル化の進展に伴い、密教・仏教の研究者や僧侶も、国際的な視野を持ち、国際交流への対応力を身に付ける必要に迫られている。幸い近年の高野山は、いながらにして国際交流を实践できる場となっている。この環境を活かして、実践的なスキルを磨き、大学での学びを社会における活動に結び付けること。これが本授業の目的である。まず近代真言宗関係者による国際交流・国際協力の歴史を学び、次いでインバウンドのための真言密教解説や高野山内の案内などを通じて、実践的な学びの体験を進める。

授業の到達目標

近代真言宗が展開してきた国際交流の歴史を知り、高野山をフィールドとした交流体験を通じて、密教・仏教の学びを国際交流に活かすスキルを身に着け、異文化理解を進める。

授業計画

1. ガイダンス (シラバス等の説明)
2. 釈尊のセイロン留学と釈雲照 1
3. 釈尊のセイロン留学と釈雲照 2
4. ブッダガヤー復興運動と真言宗 1
5. ブッダガヤー復興運動と真言宗 2
6. 土宜法龍の世界旅行 1
7. 土宜法龍の世界旅行 2
8. 中国仏教界との交流 1
9. 中国仏教界との交流 2
10. 中国仏教界との交流 3
11. 高野山真言宗における国際交流
12. 高野山における国際交流 1
13. 高野山における国際交流 2
14. 高野山における国際交流 3
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

・ 授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく (60 分) ・ 授業の内容と配布されたプリントを検討し、疑問や関心のある箇所について自分で調べる (120 分)

テキスト

・ 各回プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

草繁全宜編『釈雲照』全 3 巻、徳教会 奥山直司「近代日本仏教史の中の土宜法龍」『環』35 ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内での発表や発言 (60%)、期末レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 関連資料を正確に読解することができる。
- (B) 真言宗による国際交流・国際協力の歴史を概括的に説明できる。
- (A) 外国人を対象として高野山および高野山大学を紹介・案内する計画を立てることができる。
- (S) (A) の計画に従って外国人を案内し、高野山と高野山大学について解説できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内で質問や意見についてフィードバックを行う。

その他

気軽に出席し、自ら工夫して、国際交流を体験してもらいたい。

科目名	事相研究 I -1(大)						学期	前期	
副題	安祥寺流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-250	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

安祥寺流は御簾流とも称され真言宗の事相流派の中で最も精緻な体系をもっている。高野山においても南山教学の大成者宥快が最も重視した流派で宝性院の本流とされたものである。安流は後に新安と古安とに分流するが、この度は古安を伝授する。古安の伝授を受けることにより日本密教史を自らの関係性の上で理解し観じることができるようになること、伝統の継承を行うことができるようになることをこの講義の目的とする。事相の専門的な講義なので伝法灌頂に入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

安祥寺流の歴史と特徴を理解するだけでなく、安祥寺流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 安祥寺流について
3. 安祥寺流について
4. 加行折紙
5. 十八道次第の研究
6. 十八道次第の研究
7. 十八道次第の研究
8. 十八道次第の研究
9. 十八道次第の研究
10. 十八道次第の研究
11. 不動次第の研究
12. 不動次第の研究
13. 不動次第の研究
14. 不動次第の研究
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

講義は伝授として行うので次第の予習をすることはできない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい(20分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)講義のまとめ作成(70分)

テキスト

資料をコピーで配布

参考書・参考資料等

『真言密教事相概説』『四度部』『諸尊法、灌頂部上』『諸尊法、灌頂部下』(同朋舎)

学生に対する評価

レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 安祥寺流の特徴を簡単に説明できる
- (B) 安祥寺流の所作を理解実践説明できる。
- (A) 安祥寺流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
- (S) 安祥寺流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめ毎にフィードバックを行う。

その他

本講義は已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事。院生以外の聴講は認めない。

科目名	事相研究 I -2(大)						学期	後期	
副題	子嶋流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-251	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

子嶋流は、傳法灌頂に八印を用いるなど東密の流派の中でも特異な流派である。また、台密との関連や南都に与えた影響などを考えると極めて重要な流派である。子嶋流について伝統的な相伝と流派に伝わる文献の購読を通して専門的な知識を身に付けることを目的とする。

授業の到達目標

子嶋流の歴史と特徴を理解するだけでなく、子嶋流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 四度折紙の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
3. 四度折紙の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
4. 十八次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
5. 十八道次第の研究
6. 十八道次第の研究
7. 十八道次第の研究
8. 十八道次第の研究
9. 十八道次第の研究
10. 『十八契印生起』の研究
11. 『十八契印生起』の研究
12. 『十八契印生起』の研究
13. 『十八契印生起』の研究
14. 『十八契印生起』の研究
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい(20分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理しておくこと(90分)講義のまとめ作成(70分)

テキスト

コピーを配布

参考書・参考資料等

『子嶋流の研究』

学生に対する評価

レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 子嶋流の特徴を簡単に説明できる
- (B) 子嶋流の所作を理解実践説明できる。
- (A) 子嶋流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
- (S) 子嶋流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめり毎にフィードバックを行う。

その他

本講義は已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事

科目名	事相研究Ⅱ-1(大)							学期	前期
副題	次第のルーツを探る					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	D-01-252	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道次第の理解を深める。『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁麼儀軌』、『阿闍法』等を平行して解読しながら比較研究を行う。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘嚴について）
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（莊嚴道場法について）
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勸請法について）
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、その他）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

浄嚴の江戸期の木版『秘密儀軌』のPDF、その他の資料のPDFを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏經』、『大日本校訂大藏經』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。内容は後期に続くため、「事相研究Ⅱ-2（大）」を続けて受講することを推薦する。

科目名	事相研究Ⅱ-2(大)						学期	後期	
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	D-01-253	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界次第と一尊法の各種次第への理解を深める。後期では金剛頂経系の儀軌として『蓮華部心軌』を参考にしながら『千手儀』、『如意輪瑜伽』、『文殊軌』、『普賢金剛薩埵軌』、『理趣会軌』などを読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

- 『金剛頂経』系の儀軌を読む① (『如意輪瑜伽』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む② (『如意輪瑜伽』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む③ (『如意輪瑜伽』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む④ (『千手儀軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤ (『千手儀軌』読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥ (『千手儀軌』読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦ (『千手儀軌』読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧ (『文殊軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨ (『文殊軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩ (『文殊軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑪ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑫ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑬ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑭ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑮ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

浄厳の江戸期の木版『秘密儀軌』のPDF、その他の資料のPDFを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「事相研究Ⅱ-1(大)」ら続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	仏教学特殊研究A(大)						学期	前期
副題	釈尊伝を読む				授業方法	講義	担当者	前谷彰
ナンバリング	D-02-254	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

『法華経』を梵・漢対照でその比喻形態に着目して読みこみ、『法華経』の思想的特徴について考察し、理解する。

授業の到達目標

諸経の王と呼ばれて来た初期大乘経典の代表格である『法華経』を講読することによって、サンスクリット語の読解能力を身に付け、仏教(密教)の思想を広く深い視野で考究することができるようになる。

授業計画

1. 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(声聞不成仏の問題)
2. 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(大迦葉への授記)
3. 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(大通地勝仏の出現)
4. 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(化城の喩え)
5. 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(富楼那の出現)
6. 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(無明の酒)
7. 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(ラーフラの登場)
8. 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(迹門の法説)
9. 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(法師による教説)
10. 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(乾土の喩え)
11. 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(宝塔出現)
12. 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(法身・応身の融合)
13. 『法華経』「提婆品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(畜生龍女の成仏)
14. 『法華経』「勸持品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(弘教の誓い)
15. 上記の品以外で、重要な比喻が用いられている品を探す。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として『法華経』の梵文テキストと漢訳とを照合し、梵文和訳の予習をする。(最低週に延べ300分)。事後学修として授業で学んだことを復習する(120分)

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

梵文テキストは担当者が用意する。その他、詳細については、授業で支持する。

学生に対する評価

学期末のレポート(70%)と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか(30%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 - (B) 『法華経』の基本的な成立背景に関する知識を持っている。
 - (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 梵・漢対照の基本的な文献学的方法論を身に付けている。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊研究B(大)						学期	後期	
副題	『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読む。				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D-02-255	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解する。

授業の到達目標

ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「犀の一角の経」を読んで解説
3. 「いやしい人の経」を読んで解説
4. 「コラム1 自灯明」を読んで解説
5. 「なまぐさの経」を読んで解説
6. 「コラム2 慈悲」を読んで解説
7. 「失の経」を読んで解説
8. 「コラム3 中道」を読んで解説
9. 「愛欲の経」を読んで解説
10. 「論争と議論の経」を読んで解説
11. 「武器を手にすることの経」を読んで解説
12. 「コラム4 非我」を読んで解説
13. 「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
14. 「志あるメッター青年の質問」を読んで解説
15. 「コラム5 縁起」を読んで解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習(予習)として、1経を読んで問題点を探しておく。(180分以上) 事後学修(復習)として60分以上。論文指導については、4回生には随時アドヴァイスするが、3回生及に関しては、後期3回分で論文の書き方等の指導を行い、最終講義の際に確認作業としての論文指導を2回行う。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

学期末のレポート(100%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
(B) 古文の読解能力を身につけている。
(A) 歌意に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っている。
(S) 講義を通して、学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。

科目名	仏教史特殊研究A(大)						学期	前期
副題	仏伝			授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	D-02-256	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

仏教の開祖であるゴータマ・ブッダの伝記(仏伝)を扱う書物は、一般向けのものから専門的なものまで枚挙に暇がないが、その典拠となる資料の扱い方によって叙述の仕方は異なってくる。パーリ語・サンスクリット語・チベット語訳・漢訳などのかたちで部派に伝承される様々な仏伝資料について概観した上で、特徴的なエピソードを現代語訳で輪読し、各仏伝資料における基本的な用語やエピソードに関する知識を得るとともに、資料を批判的に検討する姿勢を身につけてゆく。

授業の到達目標

各仏伝資料における基本的な用語を理解し、仏伝資料を読解できる。各仏伝資料の特徴や仏伝資料の各エピソードについて、概括的に自分の言葉で説明できる。仏伝資料を用いて、問題の所在を明確にして、自分の考えを論述できる。

授業計画

1. オリエンテーション(シラバスの説明、授業の進め方等)
2. 仏伝とは何か—伝説と伝記・仏伝の大枠—
3. 初期仏教から部派仏教における聖典の伝承—結集と三蔵—
4. 初期仏教における仏伝①: 単独経典『スッタニパータ』
5. 初期仏教における仏伝②: 単独経典『サンユッタ・ニカーヤ』
6. 初期仏教における仏伝③: 単独経典『アングッタラ・ニカーヤ』・『聖求経』
7. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」①第1節～第5節
8. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」②第6節
9. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」③第7節～第11節
10. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」④第12節～第13節
11. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」⑤第14節～第15節
12. 仏伝の基本聖典②: 『大般涅槃経』①第1節～第5節
13. 仏伝の基本聖典②: 『大般涅槃経』②第6節～第15節
14. 仏陀の前世物語: 『ジャータカ』
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回に講読する範囲の資料を読み、必要に応じて配布される一次資料や補助資料にも目を通しておくこと(100分)。事後学習として、自分のノートやメモを見返し、専門用語や必要事項を覚えておくこと(80分)。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①谷川泰教『ブッダの伝記—その資料と解釈—(増補版)』高野山大学通信教育室、2008、②③釈尊伝研究会『釈尊および釈尊教団形成史年表』『釈尊の生涯にそって配列した事績別原始仏教聖典総覧』中央学術研究所、2019、④中村元編著『新編ブッダの世界』学習研究社、2000。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性(40%)、期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各仏伝資料における基本的な用語を理解している。
- (B) 仏伝資料を辞書などの工具を駆使して正確に読解できる。
- (A) 各仏伝資料の特徴や仏伝資料の各エピソードについて概括的に説明できる。
- (S) 仏伝資料を用いて、学術的な問題を論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。現代語訳された仏伝資料の輪読を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。パーリ語、サンスクリット語、チベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある者であれば誰でも歓迎する。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教史特殊研究B(大)							学期	後期
副題	仏伝の展開				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	D-02-257	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

部派に伝承される仏伝資料の内容を前提として、サンスクリット語・チベット語訳・漢訳などのかたちで伝承される、大乘や密教における様々な仏伝資料について概観した上で、特徴的なエピソードを現代語訳で輪読し、大乘や密教への仏伝の展開に関する知識を得て、資料を批判的に検討する姿勢を身につけてゆくとともに、チベット仏教といった他地域やキリスト教といった他宗教、さらには聖地巡礼や文学など他文化への仏伝の展開について広い視野を獲得する。

授業の到達目標

各仏伝資料における基本的な用語を理解し、仏伝資料を読解できる。大乘や密教、他の地域・宗教・文化への仏伝の展開について、概括的に自分の言葉で説明できる。仏伝資料を用いて、問題の所在を明確にして、自分の考えを論述できる。

授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 大乘における仏伝①：仏伝としての大乘経典
3. 大乘における仏伝②：『ラリタヴィスタラ』・『首楞嚴三昧経』
4. 大乘における仏伝③：『法華経』・『華嚴経』「入法界品」
5. 大乘における仏伝④：『世間随順経』・『大智度論』
6. 密教における仏伝①：纏繞心転法輪菩薩
7. 密教における仏伝②：五相成身観をめぐる展開①—一般涅槃と成道—
8. 密教における仏伝③：五相成身観をめぐる展開②—十二支縁起と五相成身観—
9. チベット仏教における仏伝
10. キリスト教における仏伝
11. 聖地巡礼と仏伝：『ディヴィヤ・アヴァダーナ』
12. 文学と仏伝：ヘルマン・ヘッセ『シッダールタ』
13. サブカルと仏伝：手塚治虫『ブッダ』・中村光『聖☆おにいさん』
14. 映画と仏伝：『リトル・ブッダ』
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回に講読する範囲の資料を読み、必要に応じて配布される一次資料や補助資料にも目を通しておくこと（100分）。事後学習として、自分のノートやメモを見返し、専門用語や必要事項を覚えておくこと（80分）。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①谷川泰教『ブッダの伝記—その資料と解釈—（増補版）』高野山大学通信教育室、2008、②平岡聡『大乘経典の誕生—仏伝の再解釈でよみがえるブッダ—』筑摩書房、2015、③田中公明『性と死の密教』春秋社、1997、④小峯和明編『東アジアの仏伝文学』勉誠出版、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各仏伝資料における基本的な用語を理解している。
- (B) 現代語訳された仏伝資料を辞書などの工具を駆使して正確に読解できる。
- (A) 大乘や密教、他の地域・宗教・文化への仏伝の展開について概括的に説明できる。
- (S) 仏伝資料を用いて、学術的な問題を論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。現代語訳された仏伝資料の輪読を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。バリー語、サンスクリット語、チベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある者であれば誰でも歓迎する。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学演習A(大)						学期	前期	
副題	「十八会指帰」所伝の聖典を読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-25-258	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

「十八会指帰」所伝の聖典を読む『サマーヨーガタントラ』精読。「十八会指帰」に関連するインド密教聖典の精読を通じて文献学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本にもとづき写本・版本をも批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコードダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学（DH）についての導入的な知識をも身につける。

授業計画

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① インド密教における「十八会指帰」の位置
3. 資料概観② 『理趣広経』と『サマーヨーガタントラ』
4. 論文指導①
5. 『サマーヨーガタントラ』精読①
6. 『サマーヨーガタントラ』精読②
7. 『サマーヨーガタントラ』精読③
8. 論文指導②
9. 『サマーヨーガタントラ』精読④
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑤
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑥
12. 論文指導③
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑦
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑧
15. 論文指導④

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと（120分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（60分）。

テキスト

①サンスクリット語原典・Dih: A Journal of Rare Buddhist Text 58, 2018, pp. 141-201、②チベット語訳・東北 366、北京 8。資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①「梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第1-3章」『大正大学総合佛教研究所紀要』41-2、2019-20年、②“Sarvabuddhasamayogaḍakinījalasaṃvara.” In: Brill’s Encyclopedia of Buddhism, vol. 1, 2017.

学生に対する評価

ミニツペーパーならびに論文指導における検討会発表（30%）、学期末レポート（70%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
 (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができています。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用することができています。
 (S) 学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、漢文を用いることができれば履修は可能なので、少しでもインド・チベット密教に興味がある希望者の積極的な参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学演習B(大)						学期	後期	
副題	「十八会指帰」所伝の聖典を読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-25-259	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

「十八会指帰」所伝の聖典を読む『サマーヨーガタントラ』精読。「十八会指帰」に関連するインド密教聖典の精読を通じて文献学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本にもとづき写本・版本をも批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコードダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学（DH）についての導入的な知識をも身につける。

授業計画

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 『サマーヨーガタントラ』精読⑨
3. 『サマーヨーガタントラ』精読⑩
4. 論文指導⑤
5. 『サマーヨーガタントラ』精読⑪
6. 『サマーヨーガタントラ』精読⑫
7. 『サマーヨーガタントラ』精読⑬
8. 論文指導⑥
9. 『サマーヨーガタントラ』精読⑭
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑮
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑯
12. 論文指導⑦
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑰
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑱
15. 論文指導⑧

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと（120分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（60分）。

テキスト

①サンスクリット語原典・Dih: A Journal of Rare Buddhist Text 58, 2018, pp. 141-201、②チベット語訳・東北 366、北京 8。資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①「梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第1-3章」『大正大学総合佛教研究所紀要』41-2、2019-20年、②“Sarvabuddhasamayogaḍakinījalasaṃvara.” In: Brill’s Encyclopedia of Buddhism, vol. 1, 2017.

学生に対する評価

ミニツペーパーならびに論文指導における検討会発表（30%）、学期末レポート（70%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
 (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができています。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用することができています。
 (S) 学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、漢文を用いることができれば履修は可能なので、少しでもインド・チベット密教に興味がある希望者の積極的な参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読A(大)						学期	前期	
副題	インド大乘仏教における空思想				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	D-02-260	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

仏教の主要な思想である「空」は、いずれの時代・地域においても、重要な課題として盛んに論じられ、多様に解釈されてきた。東アジア仏教の淵源であるインド大乘仏教では、空をどのように理解し、議論し、実践してきたのか。このテーマをとくに精力的に扱ったのが、大乘仏教の二大学派の一であり、龍樹を祖とする中観派である。本講義では、大乘仏教に至るまでの思想的展開、龍樹が構築した空思想、さらに彼に続く論師たちの思想を学ぶことで、仏教学全般を理解するための確固たる支柱を獲得することを目的とする。

授業の到達目標

とくにインド大乘仏教における空思想の特徴と展開を体系的に把握し、仏教思想全体に対する理解を深めることができる。

授業計画

1. 仏教の思想的展開
2. 初期仏教・部派仏教の思想
3. 初期仏教・部派仏教における無我・空
4. 般若經典類と空(1)
5. 般若經典類と空(2)
6. 般若經典類と空(3)
7. ナーガールジュナ(龍樹)の思想と著作
8. 『根本中頌』が説く思想(1) 縁起と中道
9. 『根本中頌』が説く思想(2) 空と空性
10. 『根本中頌』が説く思想(3) 言語表現と「ことばの虚構」
11. 「ことばの否定」と論理学
12. 中観論師たちの思想と著作(1) パーヴィヴェーカ(清弁)
13. 中観論師たちの思想と著作(2) チャンドラキールティ(月称)
14. 空思想の展開(瑜伽行唯識思想・如来蔵思想)
15. チベット・中国仏教における空思想と全体の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する。(60分)

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

立川武蔵『空の思想史』(講談社学術文庫1600、講談社、2003年)、正木晃『「空」論』(春秋社、2019年)など。他は随時、授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート(60%)、授業への取り組み・課題(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 空思想の特徴を理解し、説明できる
- (B) 空思想の特徴と展開を把握できる
- (A) 空思想の特徴と展開を体系的に理解し、説明できる
- (S) 空思想の特徴・展開を他の仏教思想と比較し、把握できる

課題に対するフィードバックの方法

疑問・質問については、毎回の授業内で全体に対してフィードバックを行ない、知識を共有する。

その他

分からない用語や概念があれば自ら辞書や参考文献を用いて学習する等、積極的に理解するよう努めること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。なお、初回授業で全体の内容理解に必要な事項を確認するので、留意して受講すること。

科目名	仏教学講読B(大)						学期	後期
副題	『唯識三十頌』を読む				授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	D-02-261	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

仏教を研究するための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必要な概念を確認し、辞書や文法書など、研究に必要な「工具」について学ぶ。その基礎知識を活用して、インド大乘仏教の二大学派の一翼を担う瑜伽行派の基本典籍であるヴァスバンドゥ著『唯識三十頌』を読み進めながら、瑜伽行派の主要な教理としてアーラヤ識説や三性説、唯識説について知識を得るとともに、文献に接する態度、基本的な読み方を身につけてゆく。

授業の到達目標

瑜伽行派における思想を体系的に理解できる。文献学に必要な概念を理解し、研究に必要な「工具」を駆使して、インド仏教文献（『唯識三十頌』）を読解できる。文献の読解結果を分析し、問題の所在を明確にして、自分の考えを論述できる。

授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 仏教を研究するための基礎知識
3. 唯識思想概観
4. 『瑜伽師地論』「本地分中三摩呬多地」Initial Passage 読解と読解結果の分析
5. 『唯識三十頌』第1偈～第7偈一識の働き―読解
6. 『唯識三十頌』第1偈～第7偈一識の働き―読解結果の分析
7. 『唯識三十頌』第8偈～第16偈一識の働き―読解
8. 『唯識三十頌』第8偈～第16偈一識の働き―読解結果の分析
9. 『唯識三十頌』第17偈～第19偈一識の働き―読解
10. 『唯識三十頌』第17偈～第19偈一識の働き―読解結果の分析
11. 『唯識三十頌』第20偈～第25偈一三性三無自性説―読解
12. 『唯識三十頌』第20偈～第25偈一三性三無自性説―読解結果の分析
13. 『唯識三十頌』第26偈～第30偈一修行論―読解
14. 『唯識三十頌』第26偈～第30偈一修行論―読解結果の分析
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、『唯識三十頌』の読解箇所の文法分析、現代語訳の作成（120分）。事後学修として、講義内容の要点をノートに整理すること（30分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分）。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①加藤弘二郎『「唯識三十頌」を読む』仏典を読むシリーズ、角川書店、2006、②廣澤隆之『『唯識三十頌』を読む』TU選書、大正大学出版会、2005、③長尾雅人・梶山雄一・荒牧典俊訳『世親論集』大乘仏典15、中央公論新社、2005。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 瑜伽行派における基本的な思想・用語を理解している。
- (B) 基本的な文法事項を押さえて文献を精読できる。
- (A) 精読した文献の内容を理解している。
- (S) 文献の読解結果を分析し、学術的な問題を論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。『唯識三十頌』の輪読を中心に受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。サンスクリット語やチベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある者であれば誰でも歓迎する。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学講読C(大)						学期	後期	
副題	秘密集会タントラ 概論を読む				授業方法	講義	担当者	平岡宏一	
ナンバリング	D-01-262	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

ゲルク派に伝わる秘密集会タントラ聖者流の概論書である、ヤンチェン・ガロ (1740～1827) 作の『吉祥秘密集会聖者流と随順する密教の〔十〕地・〔五〕道の構造の妙徳なる善説の棧橋』(略号『密教のサ・ラム』)の解説書である、拙著『秘密集会タントラ概論』(法蔵館 2018)を精読し、ゲルク派における成仏次第を理解する。本講座受講資格としては、伝法灌頂を受けている者、もしくは何らかの無上瑜伽タントラの灌頂を受けていることが望ましい。

授業の到達目標

ゲルク派の生起次第と究竟次第それぞれの次第の特徴を知り、二段階からなる成仏体系を理解し、説明できるようにする。

授業計画

1. 密教を学ぶ上の基礎知識としての顕教について①
2. 密教を学ぶ上の基礎知識としての顕教について②
3. ゲルク派における『秘密集会タントラ』の構成と学び方を知る。
4. 聖者父子の著作とされるものについての、ツォンカバの偽作と真作の判断基準
5. 『密教のサ・ラム』を解説する上で用いた注釈書の概説
6. 有相の瑜伽と無相の瑜伽の違い 密教が稀であることの根拠 五種類の人材
7. 生起次第の定義 ① 輪廻の構造を知る
8. 生起次第の定義 ② 分類 語義 成満したか否かの目安
9. 楽・空性について 楽空無別という意味を考える
10. 究竟次第 ① 心と風(ル)の関係 脈管 二つの意識など
11. 究竟次第 ② 凡庸な認識と凡庸な顕現について
12. 究竟次第 ③ 本尊瑜伽について
13. 究竟次第 ④ 究竟次第の入り口 定寂身について
14. 究竟次第 ⑤ 定寂語 について
15. 究竟次第 ⑥ 定寂心・幻身・光明・双入 について

準備学習(予習・復習)・時間

集中講義開始までに、テキスト『秘密集会タントラ概論』(法蔵館)に目を通し、各単元ごとに疑問点の整理や専門用語の下調べ等を進めておくことが望ましい (90分×15回分)

テキスト

拙著『秘密集会タントラ概論』(法蔵館 2018年)

参考書・参考資料等

拙著『ゲルク派版チベット死者の書』改訂新版 (学研 2023年)

学生に対する評価

出席50% レポート課題50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『秘密集会タントラ概論』での菩提心の重要性が説明できる。
- (B)『秘密集会タントラ概論』の各章の概要が説明できる。
- (A)『秘密集会タントラ概論』の語句、専門用語も説明できる。
- (S)『秘密集会タントラ概論』の語句、専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

その他

科目名	仏教史講読A(大)						学期	前期	
副題	弘法大師伝				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D-01-263	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

弘法大師空海の生涯を歴史学の視点から概観する。歴史学においては、史料をもとに考察するが、弘法大師空海の生涯については、空海の著述そのものが第一級の史料となる。本講義では、できる限り、空海の著述をもとにして生涯の軌跡をたどる。また、平安時代初期の基礎史料となる『日本後紀』は大部分が欠失しているため、空海の著述は平安時代初期の研究において貴重な一次資料となる。空海の生涯をたどるとともに、その著述を通して平安時代初期の社会について考察することを目指す。

授業の到達目標

弘法大師空海の著述を読み解きながら、その生涯を理解するとともに、空海が活躍した平安時代初期の社会のあり様をふまえて、日本の歴史上におけるその生涯の位置づけを考察することができる。

授業計画

1. 弘法大師空海のイメージ史実と伝承ー
2. 弘法大師空海が活躍した時代ー律令体制成熟期の社会ー
3. 誕生と青年時代ー『三教指帰』序文を読むー
4. 虚空蔵求聞持法の実修から『聾聵指帰』の撰述ー『聾聵指帰』序文を読むー
5. 唐代密教の隆盛ー『大日経』『金剛頂経』の流伝と不空・惠果ー
6. 長安での日々ー『御請来目録』からたどるー
7. 嵯峨天皇と空海ー『性霊集』にみる交流ー
8. 伝教大師最澄との交流ー『高野雄筆集』からみた交流ー
9. 真言密教の流布ー「勸縁疏」を読むー
10. 高野山の開創ー「高野山開創の上表文」を読むー
11. 真言密教による護国ー東寺・神護寺・御七日御修法ー
12. 真言密教による衆生救済ー満濟池と綜芸種智院ー
13. 真言宗の開宗ー真言宗年分度者の勅許ー
14. 弘法大師信仰の成立ー空海以後の真言宗ー
15. 平安時代初期の社会と弘法大師空海の生涯ー歴史学からみた弘法大師空海ー

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習: 事前に配信するレジュメ(配布資料)を読み、辞書等で用語・語句を調べる(60分) 事後学習: 授業で取り上げた空海の著述を熟読し、その内容を理解する(90分)

テキスト

テキストは使用せず、事前に配信するレジュメや史料にもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂宥勝『沙門空海』(ちくま学芸文庫、1993年) / 高木神元『空海の座標』(慶応義塾大学出版会、2016年) / 松長有慶『空海』(岩波新書、2022年) / 吉川真司『聖武天皇と仏都平安京』(講談社学術文庫、2018年) / 佐々木恵介『平安京の時代』(吉川弘文館、2014年)

学生に対する評価

毎回の授業コメント(40%)と期末レポート(60%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史学の視点から弘法大師空海の生涯について理解する。
 (B) 弘法大師空海の著述をもとに、歴史学の手法からその生涯の事績について考察することができる。
 (A) 平安時代初期の社会のあり様から弘法大師空海の歴史的な位置を考察することができる。
 (S) 弘法大師空海の著述や他の歴史資料から弘法大師空海の歴史的な位置づけを考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

歴史学は文献を読むことだけではなく、フィールドワークによる現地調査も不可欠である。授業に関連する現地を実際に訪れ、多角的に歴史事象を検討することを心がけてほしい。受講生の希望があれば、現地見学を設ける予定である。

科目名	仏教史講読B(大)						学期	後期	
副題	歴史資料からたどる真言宗の歴史				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D-01-264	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

弘法大師空海によって開宗された真言宗は、密教を教理とした日本独自の宗派である。空海は、高雄山寺（現在の神護寺）を皮切りに、高野山、東寺、東大寺、宮中真言院などを拠点として、真言宗を広める活動を展開し、それらは弟子たちに受け継がれた。本授業では、空海による開宗から初期の真言教団のあゆみについて、活動の拠点となった寺院を中心に、歴史資料を講読することを通じて、その背景を視野に入れながら考察する。

授業の到達目標

空海の著作や真言宗寺院に関する歴史資料を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、平安時代初期における真言宗のあゆみを理解することができる。

授業計画

1. 歴史学からみた空海の生涯①（講義）
2. 歴史学からみた空海の生涯②（講義）
3. 歴史学からみた空海の生涯③（講義）
4. 高野山の開創①（講読）
5. 高野山の開創②（講読）
6. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ①（講読）
7. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ②（講読）
8. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ③（講読）
9. 高雄山寺から神護寺へ①（講読）
10. 高雄山寺から神護寺へ②（講読）
11. 高雄山寺から神護寺へ③（講読）
12. 後七日御修法と宮中真言院①（講読）
13. 後七日御修法と宮中真言院②（講読）
14. 平安京周辺での真言宗寺院の展開（講義）
15. 寺院から考える真言宗の歴史（講義）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：授業で取り上げる歴史資料について辞書等で用語・語句を調べる（90分） 事後学習：授業で取り上げた寺院や事項について調べる（60分）。

テキスト

テキストは使用せず、歴史資料やレジュメをテーマごとに配布する。

参考書・参考資料等

平岡定海『日本寺院史の研究』（吉川弘文館、1981年）。吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018年）。その他、テーマごとの参考書や参考資料等は、授業中に紹介する。

学生に対する評価

予習・復習などを含めた授業への参加度（60%）と期末レポート（40%）によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史資料を読むスキルを身につける。
- (B) 歴史資料を読み、その内容を理解する。
- (A) 授業で取り上げた史料以外の真言宗寺院に関する歴史資料を読み解き、平安時代初期の真言宗の歴史的展開について考察することができる。
- (S) 歴史資料や先行研究にもとづいて、平安時代初期の真言宗の歴史的展開について、社会的背景をふまえて考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。①漢文の歴史資料を取り上げることがある。②受講生の関心によって、授業で取り上げた寺院や関連する場所を実際に訪れ、「歴史を体感する」機会を設けてもらいたい。

科目名	密教実践法の研究A(大)							学期	前期
副題	『中院流三十三尊法聞書』を読む(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	D-01-265	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2. 別尊次第について
3. 「金輪」
4. 「佛眼」
5. 「薬師」
6. 「阿弥陀」
7. 「釈迦」
8. 「尊勝」
9. 「聖観音」
10. 「千手」
11. 「十一面」
12. 「馬頭」
13. 「準胝」
14. 「如意輪」
15. 「白衣」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B)『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A)『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S)『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。内容は後期に続くため、「真言密教特殊講義E」を続けて受講することを推薦する。

科目名	密教実践法の研究B(大)							学期	後期
副題	『中院流三十三尊法聞書』を読む(後半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトイン	
ナンバリング	D-01-266	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1. 「弥勒」
2. 「五字文殊」
3. 「八字文殊」
4. 「延命」
5. 「地藏」
6. 「愛染」
7. 「不動」
8. 「降三世」「軍荼利」
9. 「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10. 「法華」「舍利」
11. 「光明真言」
12. 「毘沙門」
13. 「炎魔天」
14. 「水天」
15. 「聖天」「訶利帝」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B)『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A)『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S)『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「真言密教特殊講義D」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	仏教芸術の研究(大)						学期	前期	
副題	密教図像に関する体系的学習				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D-01-267	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマラー』や『ニシュパナンヨーガヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

授業の到達目標

密教尊像の基本的な知識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 漢訳資料の基本的な扱い方
3. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経前半）
4. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経後半）
5. 尊格表現方法の基本知識（仏の種類）
6. 尊格表現方法の基本知識（仏の展開）
7. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅）
8. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の展開）
9. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
10. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12. 図像資料講読演習（経典の講読）
13. 図像資料講読演習（経典の講読）
14. 図像資料講読演習（経典の講読）
15. レポート試験・講評

準備学習(予習・復習)・時間

準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週1時間。

テキスト

大正新脩大藏経図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年 頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

学生に対する評価

レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える
- (B) 密教尊像に関する知識を得る
- (A) 密教図像に関する資料を扱える
- (S) 密教図像成立を体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教学宗教史の研究(大)							学期	前期
副題	宗教学的方法論				授業方法	講義	担当者	山脇雅夫	
ナンバリング	D-03-268	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏教思想と西洋哲学との対話のケーススタディとして、西田幾多郎の「善の研究」の第四編「宗教」を検討する。宗教学の基礎的枠組みをふりかえったあとで、「善の研究」の当該部分を読解する。

授業の到達目標

『善の研究』を一つのモデルとして、宗教思想というものがどういう思想であるかを理解し、密教・仏教を哲学的に研究するための思考力を涵養する。

授業計画

1. 学問としての宗教学
2. 宗教の定義
3. 宗教の起源
4. 宗教の種類
5. 宗教体験
6. 西田幾多郎とは誰か？
7. 「善の研究」概論
8. 「善の研究」第四編第一章「宗教的要求」
9. 同上の検討
10. 「善の研究」第四編第二章「宗教の本質」
11. 同上の検討
12. 「善の研究」第四編第三章「神」
13. 同上の検討
14. 「善の研究」第四編第四章「神と世界」
15. 同上の検討

準備学習(予習・復習)・時間

テキスト該当部分を予習しておく、

テキスト

西田幾多郎「善の研究」(岩波文庫)

参考書・参考資料等

授業中に指示

学生に対する評価

授業に対する参加(60%)と学期末レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教学の基礎的枠組みを理解している
- (B) 宗教学の基礎的枠組みを理解し、「善の研究」について基本的なことを理解している
- (A) 宗教学の基礎的枠組みを理解し、「善の研究」の宗教思想を理解している
- (S) 宗教学の基礎的枠組みを理解し、「善の研究」における仏教と西洋哲学との対話を理解している

課題に対するフィードバックの方法

参加型授業のなかでの討議を通して、フィードバックを行なう

その他

科目名	アジア地域の宗教文化の研究(大)						学期	前期	
副題	中国哲学				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	D-08-269	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

中国の古典を伝統的な注釈によって読む。同時に、儒教を主とする古代中国の宗教文化について理解を深め、考察する。専門的な漢文訓読の技術を修得することを基本とするが、訓読の経験がない受講生は現代日本語訳で代用することも許容される。漢文を読解する際に必要となる対句や「典故を踏む」という手法について理解する。それは、弘法大師空海の読書法・文章作法の追体験でもある。空海思想の源泉として中国古典を認識し、密教・仏教研究の一助とする。

授業の到達目標

○専門的な漢文読解の手法を修得する。 ○中国の宗教文化について理解する。 ○弘法大師空海の知識の源泉を知る。

授業計画

- 『尚書注疏』 禹貢 「禹別九州……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「禹敷土隨山刊木……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「壺口治梁及岐……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「覃懷底績至于衡漳……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「厥田惟中中……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「夾右碣石入于河……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「九河既道……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「桑土既蠶是降丘宅土……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「浮于濟漯達于河……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「萊夷作牧……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「羽畎夏翟蟠陽孤桐……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「三江既入震澤底定……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「齒革羽毛惟木……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「荊及衡陽惟荊州……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「沱潛既道……」を読む。

準備学習(予習・復習)・時間

○テキストを訓読する、または中国語で音読する(予習 45分)。 ○内容を読解する(予習 45分)。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

『大漢和辞典』(大修館書店) 『漢語大詞典』(漢語大詞典出版社)

学生に対する評価

発表(50%) レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを訓読、または中国語で音読できる。
 (B) (C)に加え、漢文の修辭法を理解している。
 (A) (B)に加え、漢文読解の専門的な技法を修得している。
 (S) (A)に加え、漢文資料を独自の研究に利用することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内に対応する。オフィスアワーを利用することもできる。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	比較宗教の研究(大)							学期	後期
副題	高野山と周辺地域の関係					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	D-11-270	実務経験の有無	無	関連DP	密1、仏1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について民俗や歴史を学ぶことによって、身近な地域について理解する。

授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗や歴史について理解するとともに、地域文化圏の意義を説明できるようになる。

授業計画

1. 高野文化圏研究の意義
2. 高野文化圏をめぐる環境 (1) 自然環境
3. 高野文化圏をめぐる環境 (2) 社会環境
4. 景観の諸問題 (1) 景観権
5. 景観の諸問題 (2) 具体的な事例
6. 生業 (1) 1次産業
7. 生業 (2) 2次産業・3次産業
8. 交通・交易 (1) 高野七口
9. 交通・交易 (2) 高野参詣
10. 社会生活 (1) 村について
11. 社会生活 (2) 近隣組織
12. 民俗宗教 (1) 年中行事
13. 民俗宗教 (2) 高野山の信仰
14. 民俗宗教 (3) 人生儀礼
15. 高野文化圏の特徴

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編高野町2012年、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

最終レポート (70%)、授業時の小テストおよびコミュニケーションカード (30%) で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 高野文化圏の歴史や民俗について基本的事項を説明できる。
 (B) 授業内容を理解した上で、高野文化圏の歴史や民俗について説明できる。
 (A) 高野文化圏の歴史や民俗について自己の意見を述べることができる。
 (S) 高野文化圏の課題に対する対策を提案できる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	現代社会と仏教の研究(大)							学期	後期
副題	密教・仏教の学びを实践に (2)社会参加仏教				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D-01-271	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

現代社会においては密教・仏教の研究者や僧侶も、さまざまな社会問題に関心を持ち、それぞれの立場に応じて社会参加、社会貢献に努力することが求められている。社会参加仏教（エンゲイジドブuddiズム）は、21世紀の仏教の新潮流として注目されている。またSDGsやジェンダーの視点から仏教の理論と実践を捉え返そうとする動きも見られる。こうした動きを踏まえて、大学での学びを社会参加、社会貢献にどう結びつけるかを考えること。これが本授業の目的であり、様々な角度から真言密教に適した社会参加の在り方を検討してゆく。

授業の到達目標

真言密教の立場を踏まえた上で、広い視野をもって、社会参加、社会貢献について考え、実践する力を身に着ける。

授業計画

1. ガイダンス
2. 現代社会と仏教
3. 世界仏教の潮流 1
4. 世界仏教の潮流 2
5. 社会参加仏教 1
6. 社会参加仏教 2
7. 社会参加仏教 3
8. 社会参加仏教 4
9. 社会参加仏教 5
10. 社会参加仏教 6
11. ジェンダーと仏教
12. 日本型社会参加仏教
13. 真言宗の社会参加 1
14. 真言宗の社会参加 2
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

- ・ 授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく (60分)
- ・ 授業の内容と配布されたプリントを検討し、疑問や関心のある箇所について自分で調べる (120分)

テキスト

各回プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

阿満利麿『社会をつくる仏教 エンゲイジド・ブuddiズム』人文書院
ケネス・タナカ『アメリカ仏教』武蔵野大学出版会

学生に対する評価

授業内での発表や発言 (60%)、期末レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 関連資料を正確に読解することができる。
- (B) 仏教を介した社会参加、社会貢献の動向を世界的な視野で概括的に説明できる。
- (A) 真言密教に適した社会参加、社会貢献のあり方を自分なりに考え、発表することができる。
- (S) 真言密教に適した社会参加、社会貢献のあり方を自分なりに実践に移すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内で質問や意見についてフィードバックを行う。

その他

気軽に出席し、学習の輪に参加してもらいたい。

科目名	密教特殊演習A-1(大)							学期	前期
副題	引導作法の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-272	実務経験の有無	無	関連DP	2.3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

引導作法について歴史を中心に検討を加えることによって、その形成と展開を解明することを目的とする。特に、その歴史的展開を解明したい。

授業の到達目標

引導作法の歴史について資料をもとにしながら新しい学説を立てられることを目標とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 引導作法の歴史的研究
3. 引導作法の歴史的研究
4. 引導作法の歴史的研究
5. 引導作法の歴史的研究
6. 小論文作成、口頭発表
7. 引導作法の歴史的研究
8. 引導作法の歴史的研究
9. 引導作法の歴史的研究
10. 引導作法の歴史的研究
11. 引導作法の歴史的研究
12. 小論文作成、口頭発表
13. 論文作成
14. 論文作成
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

テキスト

『葬儀の意義』(高野山真言宗布教研究所)

参考書・参考資料等

高見寛恭『真言宗引導作法具書』

学生に対する評価

授業準備、発表40%、発表後の修正20%、学術論文作成40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 引導作法について説明できる
- (B) 引導作法の歴史について説明できる
- (A) 引導作法の歴史について文献を用いて学術的に説明できる
- (S) 引導作法の歴史について学術的新知見を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を行うので学生が毎回発表を行いそれについて教員が講評をおこなう。(毎回授業でフィードバックを行う)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習A-2(大)							学期	後期
副題	葬送儀礼の種々相					授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	D-01-273	実務経験の有無	無	関連DP	2.3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現代社会において葬送儀礼は実に多様化している。ペット供養(葬儀)ということについて様々な角度から検討を加えることによって葬送儀礼についての現状を記録すると共にこれまでどのようにその問題が取り扱われてきたかを解明することを目的とする。

授業の到達目標

博論の作成のための新知見の創出を目標とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 馬頭観音の信仰
3. 馬頭観音の信仰
4. 空海の六道四生観
5. 空海の六道四生観
6. ペット葬儀の現状
7. ペット葬儀の現状
8. ペット葬儀の現状
9. 小論文作成、口頭発表
10. フィールドワーク分析
11. フィールドワーク分析
12. 論文作成
13. 論文作成
14. 論文作成
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

テキスト

『秘鈔』『薄草子』その他。『葬儀の意義』(高野山真言宗布教研究所)

参考書・参考資料等

高見寛恭『真言宗引導作法具書』

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 引導作法について説明できる
- (B) 引導作法の歴史について説明できる
- (A) 葬送儀礼の現状について客観的なデータを用いて学術的に説明できる
- (S) 葬送儀礼の現状について学術的新知見を提示できる

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を行うので学生が毎回発表を行いそれについて教員が講評をおこなう。(毎回授業でフィードバックを行う)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習C-1(大)							学期	前期
副題	真言宗と天台宗の行位論の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-274	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3,	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言宗と天台宗の行位論を比較検討する事によって、日本密教における東密と台密の相違点を明確化する。さらに、行位論の相違点の源がいかなる思想（文献）によるものかを解明することが授業の目的である。

授業の到達目標

研究成果を学術誌に投稿することを目標とする。あわせて、博士論文の主要部分を作成することを最終目標にする。

授業計画

1. オリエンテーション 先行研究の整理
2. 先行研究の整理
3. 『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
4. 『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
5. 『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
6. 『大日經疏』の行位論
7. 『大日經疏』の行位論
8. 『大日經疏』の行位論
9. 『大日經疏』の行位論
10. 『大日經疏』の行位論
11. 『大日經疏』の行位論
12. 『大日經疏』の行位論
13. 『大日經疏』の行位論のまとめ
14. 『大日經疏』の行位論のまとめ
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の準備（120分）、講義の後の復習と整理（60分）

テキスト

『冠注大日経住心品疏』『成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌』

参考書・参考資料等

『大正大藏経』『国訳一切経』『国訳秘密儀軌』

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 真言宗と天台宗の行位論の違いを簡単に説明できる。
- (B) 真言宗と天台宗の行位論の違いを文献を用いて説明できる。
- (A) 真言宗と天台宗の行位論の違いを先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
- (S) 真言宗と天台宗の行位論の違いを独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習C-2(大)							学期	後期
副題	真言宗と天台宗の行位論の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-275	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言宗と天台宗の行位論を比較検討する事によって、日本密教における東密と台密の相違点を明確化する。さらに、行位論の相違点の源がいかなる思想（文献）によるものかを解明することが授業の目的である。

授業の到達目標

研究成果を学術誌に投稿することを目標とする。あわせて、博士論文の主要部分を作成することを最終目標にする。

授業計画

1. オリエンテーション 前期の振り返り
2. 天台宗の行位論
3. 天台宗の行位論
4. 天台宗の行位論の分析
5. 天台宗の行位論の分析
6. 真言宗の行位論の分析
7. 真言宗の行位論の分析
8. 真言宗の行位論の分析
9. 真言宗と天台宗の行位論の比較
10. 真言宗と天台宗の行位論の比較
11. 経軌の行位論の分析
12. 経軌の行位論の分析
13. 行位論の分析と批判検討
14. 行位論の分析と批判検討
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の準備 (120分)、講義の後の復習と整理 (60分)

テキスト

『冠注大日経住心品疏』『成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌』

参考書・参考資料等

『大正大藏経』『国訳一切経』『国訳秘密儀軌』

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 真言宗と天台宗の行位論の違いを簡単に説明できる。
 (B) 真言宗と天台宗の行位論の違いを文献を用いて説明できる。
 (A) 真言宗と天台宗の行位論の違いを先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
 (S) 真言宗と天台宗の行位論の違いを独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習D-1(大)							学期	前期
副題	画像資料の講読				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D-01-276	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

中国における観音の成立と展開を理解するためにインド、東アジア、日本の各地域における観音の展開を文献資料、および現地に残される遺品をもとに考察する。

授業の到達目標

インドに興り日本まで展開した観音信仰の成立と展開の一連の繋がりを確認し、整理し体系づける。

授業計画

1. 演習 (1)
2. 演習 (2)
3. 演習 (3)
4. 演習 (4)
5. 演習 (5)
6. 演習 (6)
7. 演習 (7)
8. 演習 (8)
9. 演習 (9)
10. 演習 (10)
11. 演習 (11)
12. 演習 (12)
13. 演習 (13)
14. 演習 (14)
15. 演習 (15)

準備学習(予習・復習)・時間

別途指示する。

テキスト

別途指示する。

参考書・参考資料等

別途指示する。

学生に対する評価

研究に対する問題点への洞察力、研究手法の到達点により評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 研究課題に対してポイントを整理できる。
- (B) 研究課題に対して的確な研究手法が組み上げられる。
- (A) 研究課題に関して新知見が提供できる。
- (S) 学会等での確かな発表ができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の演習で指導する。

その他

科目名	密教特殊演習D-2(大)							学期	後期
副題	画像資料の講読				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D-01-277	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

中国における観音の成立と展開を理解するためにインド、東アジア、日本の各地域における観音の展開を文献資料、および現地に残される遺品をもとに考察する。

授業の到達目標

インドに興り日本まで展開した観音信仰の成立と展開の一連の繋がりを確認し、整理し体系づける。

授業計画

1. 演習 (1)
2. 演習 (2)
3. 演習 (3)
4. 演習 (4)
5. 演習 (5)
6. 演習 (6)
7. 演習 (7)
8. 演習 (8)
9. 演習 (9)
10. 演習 (10)
11. 演習 (11)
12. 演習 (12)
13. 演習 (13)
14. 演習 (14)
15. 演習 (15)

準備学習(予習・復習)・時間

別途指示する。

テキスト

別途指示する。

参考書・参考資料等

別途指示する。

学生に対する評価

研究に対する問題点への洞察力、研究手法の到達点により評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 研究課題に対してポイントを整理できる。
- (B) 研究課題に対して的確な研究手法が組み上げられる。
- (A) 研究課題に関して新知見が提供できる。
- (S) 学会等での確かな発表ができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の演習で指導する。

その他

科目名	密教特殊演習E-1(大)						学期	前期	
副題	即身成仏思想の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-278	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

即身成仏思想は真言宗の根本教理である。「即身成仏思想」は『即身成仏義』にて大成されるが、思想に留まるだけではなく実践大系とも深い関わりを有する。特に「三密加持」とはいかなるものかを解明することは重要な問題である。さらに、「即身成仏思想」が後世に与えた影響についても「三密加持」を切り口にもう一度再検討する必要がある。これらの点を検討解明することによって博論を作成する能力を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

博論の中の一章を作成し、その内容を学術誌に投稿することを目標とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
3. これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
4. これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
5. 日本部教における成仏思想の研究
6. 日本仏教における成仏思想の研究
7. 修論作成時の即身成仏思想の振り替えり
8. 三密加持と即身成仏
9. 三密加持と即身成仏
10. 三密加持と即身成仏
11. 三密加持と即身成仏
12. 三密加持と密教瞑想法
13. 三密加持と密教瞑想法
14. 三密加持と密教瞑想法
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の準備 (120分)、講義の後の復習と整理 (60分)

テキスト

『十卷章』(高野山大学出版部)、(『弘法大師全集』『定本弘法大師全集』)

参考書・参考資料等

中川善教『漢和对照十卷章』(高野山出版社) 『即身成仏義の研究』(密経文化研究所紀要別冊) 小田慈舟『十卷章講説』(高野山出版社) 松長有慶『訳注即身成仏義』(春秋社)

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 即身成仏思想を『即身成仏義』にしたがって説明できる。
 (B) 即身成仏思想を『即身成仏義』とその注釈を用いて説明できる。
 (A) 即身成仏思想を先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
 (S) 即身成仏思想を独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習E-2(大)							学期	後期
副題	即身成仏思想の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-279	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

即身成仏思想は真言宗の根本教理である。「即身成仏思想」は『即身成仏義』にて大成されるが、思想に留まるだけではなく実践大系とも深い関わりを有する。特に「三密加持」とはいかなるものかを解明することは重要な問題である。さらに、「即身成仏思想」が後世に与えた影響についても「三密加持」を切り口にもう一度再検討する必要がある。これらの点を検討解明することによって博論を作成する能力を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

博論の中の一章を作成し、その内容を学術誌に投稿することを目標とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『即身成仏義』の研究
3. 『即身成仏義』の研究
4. 『即身成仏義』の研究
5. 『即身成仏義』の研究
6. 『即身成仏義』の研究
7. 『即身成仏義』の研究
8. 『即身成仏義』の研究
9. 『即身成仏義』の研究
10. 『即身成仏義』の研究
11. 『即身成仏義』の注釈書研究
12. 『即身成仏義』の注釈書研究
13. 『即身成仏義』の注釈書研究
14. 『即身成仏義』の注釈書研究
15. 『即身成仏義』の注釈書研究

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の準備 (120分)、講義の後の復習と整理 (60分)

テキスト

『十卷章』(高野山大学出版部)、(『弘法大師全集』『定本弘法大師全集』)

参考書・参考資料等

中川善教『漢和対照十卷章』(高野山出版社) 『即身成仏義の研究』(密経文化研究所紀要別冊) 小田慈舟『十卷章講説』(高野山出版社) 松長有慶『訳注即身成仏義』(春秋社)

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 即身成仏思想を『即身成仏義』にしたがって説明できる。
- (B) 即身成仏思想を『即身成仏義』とその注釈を用いて説明できる。
- (A) 即身成仏思想を先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
- (S) 即身成仏思想を独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習F-1(大)						学期	前期	
副題	『大日経義釈演密鈔』演習				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D-01-280	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『大日経義釈』の注釈書である覚苑の『大日経義釈演密鈔』は、遼代に作成された『大日経義釈』（『大日経疏』）の注釈書である。この『大日経義釈演密鈔』は、空海による顕密対弁や真言宗の教学の影響下にならずに中国独自の注釈書であり、その内容を検討することは、「中国仏教界で密教がどのように受容されたのか」をうかがうためにも重要である。この特殊演習では、受講生による『大日経義釈演密鈔』読解を中心に、中国仏教思想と密教の関連を考察する。今年度は、「文前聊簡第一」を読む。

授業の到達目標

中国仏教思想史の観点から見た『大日経疏』（『義釈』）の位置づけを、『大日経義釈演密鈔』の注釈を踏まえて検討した上で、学術論文として発表する。

授業計画

- ガイダンス
- 先行研究分析① 脇谷論文
- 〃 ② 松永論文
- 〃 ③ 鎌田論文
- 〃 ④ 木村論文
- 『大日経義釈演密鈔』演習① 序文 1
- 『大日経義釈演密鈔』演習② 序文 2
- 『大日経義釈演密鈔』演習③ 序文 3
- 『大日経義釈演密鈔』演習④ 起教因縁 1
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑤ 起教因縁 2
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑥ 起教因縁 3
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑦ 蔵教収撰 1
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑧ 蔵教収撰 2
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑨ 蔵教収撰 3
- 前期のまとめと講評

準備学習(予習・復習)・時間

・該当箇所読解 (120分) ・演習時の指摘箇所の修正 (60分)

テキスト

覚苑『大日経義釈演密鈔』（10巻）、『新纂卍大日本統蔵経』第23巻、国書刊行会 ※コピーを自分で用意する。

参考書・参考資料等

鎌田茂雄「華嚴思想史よりみた遼代密教の特質」、印仏研 8-2、1960。木村清孝「覚苑における法界縁起思想の受容」、『仏教思想の諸問題』、春秋社、1985。※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内の発表 (50%)、学術論文の作成 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 『大日経義釈演密鈔』の漢文を書き下しにできる。
- 『大日経義釈演密鈔』の書き下し文を現代日本語に直せる。
- 『大日経義釈演密鈔』に引用されている諸経論の典拠を確認できる。
- 上記 (C) ~ (A) を踏まえて、学術論文を作成できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業中に指導する。

その他

・演習のため、必ず該当箇所の資料を作成すること。・この演習の取り組みを自身の研究テーマに反映させ、20,000字程度の学術論文にまとめること。・この授業は、受講生が主体となるアクティブラーニングである。

科目名	密教特殊演習F-2(大)						学期	後期	
副題	『大日経義釈演密鈔』演習				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D-01-281	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『大日経義釈』の注釈書である覚苑の『大日経義釈演密鈔』は、遼代に作成された『大日経義釈』（『大日経疏』）の注釈書である。この『大日経義釈演密鈔』は、空海による顕密対弁や真言宗の教学の影響下にならずに中国独自の注釈書であり、その内容を検討することは、「中国仏教界で密教がどのように受容されたのか」をうかがうためにも重要である。この特殊演習では、受講生による『大日経義釈演密鈔』読解を中心に、中国仏教思想と密教の関連を考察する。今年度は、「文前聊簡第一」を読む。

授業の到達目標

中国仏教思想史の観点から見た『大日経疏』（『義釈』）の位置づけを、『大日経義釈演密鈔』の注釈を踏まえて検討した上で、学術論文として発表する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 『大日経義釈演密鈔』演習⑩ 説経会処 1
3. 『大日経義釈演密鈔』演習⑪ 説経会処 2
4. 『大日経義釈演密鈔』演習⑫ 説経会処 3
5. 『大日経義釈演密鈔』演習⑬ 弁教浅深 1
6. 『大日経義釈演密鈔』演習⑭ 弁教浅深 2
7. 『大日経義釈演密鈔』演習⑮ 弁教浅深 3
8. 『大日経義釈演密鈔』演習⑯ 明経宗趣 1
9. 『大日経義釈演密鈔』演習⑰ 明経宗趣 2
10. 『大日経義釈演密鈔』演習⑱ 明経宗趣 3
11. 『大日経義釈演密鈔』演習⑲ 翻訳伝通 1
12. 『大日経義釈演密鈔』演習⑳ 翻訳伝通 2
13. 『大日経義釈演密鈔』演習㉑ 翻訳伝通 3
14. 『大日経義釈演密鈔』演習㉒ 翻訳伝通 4
15. 後期のまとめと展望

準備学習(予習・復習)・時間

・該当箇所の読解 (120分) ・演習時の指摘箇所の修正 (60分)

テキスト

覚苑『大日経義釈演密鈔』(10巻)、『新纂卍大日本統蔵経』第23巻、国書刊行会 ※コピーを自分で用意する。

参考書・参考資料等

鎌田茂雄「華嚴思想史よりみた遼代密教の特質」、印仏研 8-2、1960。木村清孝「覚苑における法界縁起思想の受容」、『仏教思想の諸問題』、春秋社、1985。※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内の発表 (50%)、学術論文の作成 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『大日経義釈演密鈔』の漢文を書き下しにできる。
- (B) 『大日経義釈演密鈔』の書き下し文を現代日本語に直せる。
- (A) 『大日経義釈演密鈔』に引用されている諸経論の典拠を確認できる。
- (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえて、学術論文を作成できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業中に指導する。

その他

・演習のため、必ず該当箇所の資料を作成すること。・この演習の取り組みを自身の研究テーマに反映させ、20,000字程度の学術論文にまとめること。・この授業は、受講生が主体となるアクティブラーニングである。

科目名	密教特殊演習G-1(大)							学期	前期
副題	歴史学の研究方法を用いて研究論文を作成する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D-01-282	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

修士論文の成果をふまえ、課題や問題点を明らかにし、完成度をより高めるために、最近の研究成果を報告してもらおう。研究史を批判的に検討し、史料の読み込みを深めるとともに、史料収集状況を確認しながら、博士論文の作成にむけて今後の方向性を探るようにしたい。

授業の到達目標

①研究史の批判的な検討をすることができる。 ②関係史料の読み込みをさらに深める。

授業計画

1. 授業計画と方法について
2. 奈良・平安時代史研究の最新動向①（講義）
3. 奈良・平安時代史研究の最新動向②（講義）
4. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議①
5. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議②
6. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議③
7. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議④
8. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑤
9. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑥
10. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑦
11. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑧
12. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑨
13. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑩
14. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑪
15. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑫

準備学習(予習・復習)・時間

①年に1本は研究論文を書けるように、研究を進める。 ②学内の学会のほか、外部の学会や研究会に参加し、研究情報を集める。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①報告内容（50%）・レポート（30%）・討議への参加度（20%）によって評価する。 ②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史学の研究方法を理解し、研究史を批判的に検討することができる。
- (B) 関係史料を深く読み込み、正確に解釈することができる。
- (A) 研究テーマの現状と問題点を把握して、自分なりの見解を論じることができる。
- (S) 学内外の学会や研究会に積極的に参加して研究情報を集め、研究論文を書くための準備を進めることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	密教特殊演習G-2(大)							学期	後期
副題	歴史学の研究方法を用いて研究論文を執筆する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D-01-283	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

春学期までの研究成果をふまえ、課題や問題点を明らかにし、完成度をより高めるために、最近の研究成果を報告してもらおう。研究史を批判的に検討し、史料の読み込みをさらに深めるとともに、史料収集状況を再確認しながら、博士論文の作成にむけて今後の方向性を探るようにしたい。

授業の到達目標

①通説を乗り越える道を模索する。 ②文献史料のより深い読み込みを学ぶ。

授業計画

1. 授業計画と方法について
2. 奈良・平安時代史研究の最新動向①（講義）
3. 奈良・平安時代史研究の最新動向②（講義）
4. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議①
5. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議②
6. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議③
7. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議④
8. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑤
9. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑥
10. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑦
11. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑧
12. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑨
13. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑩
14. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑪
15. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑫

準備学習(予習・復習)・時間

①研究論文の完成に向けて、研究を進める。 ②外部の学会や研究会に積極的に参加し、研究情報を集める。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①報告内容（50%）・レポート（30%）・討議への参加度（20%）によって評価する。 ②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 研究史を批判的に検討し、通説を乗り越える道を模索することができる。
- (B) 文献史料をより深く読み込み、正確に解釈することができる。
- (A) 研究テーマの現状と問題点を把握して、自分なりの見解を論じることができる。
- (S) 外部の学会や研究会に積極的に参加して研究情報を集め、研究論文を完成させることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	仏教特殊演習A-1(大)							学期	前期
副題	『瑜祇経』の読解				授業方法	演習	担当者	大学院委員長	
ナンバリング	D-01-284	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『瑜祇経』を徹底的に解説する

授業の到達目標

本経の成立背景や思想的特徴を明らかにする

授業計画

1. 『瑜祇経』解説 序文
2. 『瑜祇経』解説 第一章①
3. 『瑜祇経』解説 第一章②
4. 『瑜祇経』解説 第二章
5. 注釈書を参考にする
6. 頼瑜の注釈
7. 梟宝の注釈
8. 同経成立の思想的背景
9. 同経成立の思想的意義
10. タントラ文献の中の位置
11. 無上ユガタントラと『瑜祇経』の比較①
12. 無上ユガタントラと『瑜祇経』の比較②
13. 密教における『瑜祇経』の役割
14. 弘法大師と本経の関係①
15. 弘法大師と本経の関係②

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の予習 (60分)、復習 (30分)

テキスト

『瑜祇経』と幾つかの注釈書 (詳細は授業中に指示する)

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

研究に対する意欲 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『瑜祇経』の位置について考えることができる
- (B) 『瑜祇経』の特殊性について考えることができる
- (A) 注釈書を調べることができる
- (S) 『瑜祇経』全体の思想的特徴について考えることができる

課題に対するフィードバックの方法

授業時に毎回フィードバックする

その他

科目名	仏教特殊演習A-2(大)							学期	後期
副題	『瑜祇経』の読解				授業方法	演習	担当者	大学院委員長	
ナンバリング	D-01-285	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

博士論文『瑜祇経』の研究を仕上げる。

授業の到達目標

博士論文を完成させる

授業計画

1. 博士論文作成作業①
2. 博士論文作成作業②
3. 博士論文作成作業③
4. 博士論文作成作業④
5. 博士論文作成作業⑤
6. 博士論文作成作業⑥
7. 博士論文作成作業⑦
8. 博士論文作成作業⑧
9. 博士論文作成作業⑨
10. 博士論文作成作業⑩
11. 博士論文作成作業⑪
12. 博士論文作成作業⑫
13. 博士論文作成作業⑬
14. 博士論文作成作業⑭
15. 博士論文作成作業⑮

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の予習 (60分)、復習 (30分)

テキスト

『瑜祇経』と幾つかの注釈書(詳細は授業中に指示する)

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

論文作成を意欲的にするか(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『瑜祇経』の成立背景を調べることができる
- (B)『瑜祇経』の思想的基盤を調べることができる
- (A)『瑜祇経』の密教経典としての位置について考えることができる
- (S)『瑜祇経』の研究についての論文を作成することができる

課題に対するフィードバックの方法

授業時に毎回フィードバックする

その他

科目名	仏教特殊演習B-1(大)							学期	前期
副題	チベット選述文献を活用した仏教学の再構築				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-02-286	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

ブトゥン「カーラチャクラ史」校訂・訳注研究。シャル寺の学僧プトゥン・リンチェントップ (1290—1364) の『タントラ部における甚深なる意味内容の門を開くもの「宝庫の愛重すべき鍵」』(「カーラチャクラ史」) を文献学的手法にもとづき精密な校訂テキストと訳注を制定することによってインド学・チベット学・仏教学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本の制定にあたって写本・版本を批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコーダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学 (DH) についての応用的な知識をも身につける。

授業計画

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① レニングラード学派と羽田野伯猷・チベット選述文献と仏教学研究
3. 資料概観② シャーリプトラとチベタン・ルネサンス
4. 論文指導①
5. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注①
6. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注②
7. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注③
8. 論文指導②
9. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注④
10. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注⑤
11. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注⑥
12. 論文指導③
13. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注⑦
14. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注⑧
15. 論文指導④

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し校訂・訳注のドラフトを用意しておくこと (270分)。事後学習としてドラフトを修正し、次回のドラフトにフィードバックしたうえで必要事項を覚えておくこと (180分)。

テキスト

rGyud sde' i zab don sgo 'byed, Rin chen gces pa' i lde mig of Bu ston Rin chen grub (東北 5011)。

参考書・参考資料等

羽田野伯猷『チベット・インド学集成』, 京都・法蔵館, 1986—1988。Jonathan A. Silk(eds.). Brill' s Encyclopedia of Buddhism, Brill Academic Pub, 2015—2023。他のマテリアルについては授業でその都度指示する。

学生に対する評価

ドラフトの内容ならびに論文指導における検討会発表 (70%)、学期末レポート (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
- (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえ、校訂・訳注研究における基本的な方法論を身につけている。
- (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学 (DH) の技術を活用しつつ、個別の学術論文を作成しうる水準に達している。
- (S) 学位請求論文の水準に達する学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。次回授業の開始前に毎回の前回までのフィードバックを終えた校訂テキストと訳注のドラフト提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることを前提とする。

科目名	仏教特殊演習B-2(大)						学期	後期	
副題	注釈文献とチベット語訳にもとづく原典復元				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-02-287	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

アヌバマラクシタ「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注研究。ヴィクラマシーラ僧院の法灯を受け継ぐ学僧アヌバマラクシタ（10—11世紀）に帰される「シャッダーンガヨーガ（六項目からなる達成目標＝ヨーガ）」を対象に、文献学的手法にもとづき精密な校訂テキストと訳注を制定することによってインド学・チベット学、仏教学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本の制定にあたって先行する研究、写本・版本とを批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。梵文写本の文字形態学はもちろん、辞書・コンコーダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学（DH）についての応用的な知識をも身につける。

授業計画

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 資料概観①
3. 資料概観②
4. 論文指導①
5. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注①
6. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注②
7. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注③
8. 論文指導②
9. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注④
10. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注⑤
11. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注⑥
12. 論文指導③
13. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注⑦
14. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注⑧
15. 論文指導④

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し校訂・訳注のドラフトを用意しておくこと（270分）。事後学習としてドラフトを修正し、次回のドラフトにフィードバックしたうえで必要事項を覚えておくこと（180分）。

テキスト

Francesco Sferra. *The Sadangayoga by Anupamaraksita: with Ravisrijnana's Gunabharaninamasadangayogatippani*, Roma: IsIAO, 2000.

参考書・参考資料等

羽田野伯猷『チベット・インド学集成』、京都・法蔵館、1986—1988。Jonathan A. Silk(eds.). Brill's Encyclopedia of Buddhism, Brill Academic Pub, 2015—2023。他のマテリアルについては授業でその都度指示する。

学生に対する評価

ドラフトの内容ならびに論文指導における検討会発表（70%）、学期末レポート（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
 (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえ、校訂・訳注研究における基本的な方法論を身につけている。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用しつつ、個別の学術論文を作成しうる水準に達している。
 (S) 学位請求論文の水準に達する学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。次回授業の開始前に毎回の前回までのフィードバックを終えた校訂テキストと訳注のドラフト提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることを前提とする。

教員別索引

あ	有松 孝雄	企画科目(仏画)	文-112	か	川崎 一洋	密教学特殊講義T【LSO】	文-75
		仏教芸術(別)	文-112				祖典講読II T【LSO】
い	足立 信行	キャリアデザインVA	文-67			真言宗典講読2(別)	文-66
		キャリアデザインVIA	文-68			密教学特殊研究A(大)	院-6
い	五十嵐 啓道	真言密教特殊講義T【IP】	文-210			密教学特殊研究B(大)	院-7
	井内 真帆	チベット語S【LSO】	文-134	き	菊谷 竜太	サンスクリット語A	文-8
	チベット語(別)	文-134					サンスクリット語(別)
い	伊藤佳世子	英語 I	文-3			仏教学概論S	文-51
		企画科目(高野山国際ガイド体験)	文-132			仏教学概論S【LSO】	文-51
い	岩崎 日出男	密教史特殊研究B(大)	院-11			仏教史概説S	文-53
	う	上野 和久	企画科目(発達心理学)	文-114		仏教史概説S【LSO】	文-53
う		企画科目(発達心理学)【LSO】	文-114			密教学演習G	文-105
		企画科目(カウンセリング論)	文-115			密教学演習T【LSO】	文-216
う		企画科目(カウンセリング論)【LSO】	文-115			仏教学講義(大)	院-2
		企画科目(学校臨床心理学)	文-116			仏教学演習A(大)	院-29
う		企画科目(学校臨床心理学)【LSO】	文-116			仏教学演習B(大)	院-30
		教育相談	文-190			仏教特殊演習B-1(大)	院-57
お		教育相談【LSO】	文-190			仏教特殊演習B-2(大)	院-58
	お	大河内 大博	企画科目(スピリチュアルケア論A)【LS】	文-225	木	地 茂典	情報処理
お		企画科目(スピリチュアルケア論B)【LS】	文-226	北	川 真寛	密教学概論S	文-50
	大	柴 清圓	祖典講読II A	文-63		密教学概論S【OD】	文-50
お		密教学演習A(大)	院-12			祖典講読 I B	文-60
		密教学演習B(大)	院-13			真言密教講読演習B	文-97
お		密教学講読A(大)	院-16			密教学演習N	文-108
		密教学講読B(大)	院-17			法式上級	文-138
お	岡田 英作	密教学演習H(再履修)	文-106			空海の思想入門S【LSO】	文-201
		仏教学特殊講義T【LSO】	文-210			真言宗の教えB(別)	文-50
お		仏教学特殊講義W	文-80			法式上級(別)	文-138
		仏教学特殊講義W【LSO】	文-80			密教学講義(大)	院-1
お		仏教学講読演習T【LSO】	文-214			密教史特殊研究A(大)	院-10
		仏教学講読演習V	文-95	木	下 智雄	真言密教講読演習G	文-101
お		仏教学講読演習V【LSO】	文-95			企画科目(高野山の歴史と文化S)	文-113
		仏教学講読演習W	文-96			企画科目(高野山の歴史と文化S)【LSO】	文-113
お		仏教学講読演習W【LSO】	文-96			漢文S【LSO】	文-202
		パーリ語S	文-135			密教史講読(大)	院-18
お		パーリ語S【LSO】	文-135	こ	高 祖・辻	宗教芸能(宗教舞踊)	文-31
		パーリ語(別)	文-135			伝統文化(華道)	文-30
お		教育心理学	文-182		五 味 和樹	企画科目(心理統計学)【OD】	文-227
		教育心理学【LSO】	文-182		五 明 優介	企画科目(心理測定法)【OD】	文-228
お		道徳教育指導論	文-186	き	齋 藤 天譽	梵字悉曇A	文-28
		宗教科教育法III	文-193			梵字悉曇(別)	文-28
お		釈尊の生涯(別)	文-95			歴史学	文-54
		仏教史特殊研究A(大)	院-27	坂	口 太郎	密教学講読演習B	文-89
お		仏教史特殊研究B(大)	院-28			密教学演習K	文-107
		仏教学講読B(大)	院-32			企画科目(歴史学入門)	文-123
お	岡本 文音	伝統文化(茶道)	文-29			企画科目(歴史学入門演習)	文-124
	奥山 直司	密教と文化(大)	院-20			書誌学	文-144
お		仏教と文化(大)	院-20			古文書学	文-145
		現代社会と仏教の研究(大)	院-42			歴史学S【LSO】	文-205
お	小田 龍哉	宗教思想史 I S	文-34			仏教学講読演習U【IP】	文-213
		宗教思想史 I S【LSO】	文-34			密教史演習A(大)	院-14
お		宗教学 I S	文-55			密教史演習B(大)	院-15
		宗教学 I S【LSO】	文-55	櫻	木 潤	宗教思想史 II S	文-35
お		宗教学 II S	文-56			宗教思想史 II S【LSO】	文-35
		宗教学 II S【LSO】	文-56			密教学演習D	文-103
お		世界の宗教(別)	文-55			生涯学習概論	文-171
		世界の宗教(別)	文-56			博物館教育論	文-178
お		宗教学方法論S	文-149			博物館実習	文-179
		宗教学方法論S【LSO】	文-149			密教学特殊講義V【LSO】	文-208
か	加藤 善弘	法式	文-23			密教学講読演習U【LSO】	文-211
		法式(別)	文-23			密教学演習S【LSO】	文-215
か	亀位 卓英	英語II	文-5			仏教史講読A(大)	院-34
	川崎 一洋	宗典講読T	文-66			仏教史講読B(大)	院-35
か		密教学特殊講義S	文-74			密教特殊演習G-1(大)	院-53
		密教学特殊講義S【LSO】	文-74			密教特殊演習G-2(大)	院-54
		密教学特殊講義T	文-75	佐	々 木 聡	教育方法論-ICT活用論	文-188
						生徒指導・進路指導	文-189

教員別索引

さ	佐藤隆彦	真言密教特殊講義F	文-85	と	土居夏樹	祖典講読I S[LSO]	文-62
		真言密教特殊講義G	文-86			密教学講読演習S	文-90
		真言密教特殊講義U[IP]	文-87			密教学講読演習S[LSO]	文-90
		観法の理論と実習B(別)	文-87			密教学演習U[LSO]	文-214
		真言密教講読演習C	文-98			密教学演習U[LSO]	文-217
		事相研究I-1(大)	院-21			宗教の歴史(別)	文-57
		事相研究I-2(大)	院-22			宗教の歴史(別)	文-58
		密教特殊演習A-1(大)	院-43			密教特殊演習F-1(大)	院-51
		密教特殊演習A-2(大)	院-44			密教特殊演習F-2(大)	院-52
		密教特殊演習C-1(大)	院-45	徳	重弘志	密教史概説S	文-52
		密教特殊演習C-2(大)	院-46			密教史概説S[LSO]	文-52
		密教特殊演習E-1(大)	院-49			サンسكريット語上級S	文-133
		密教特殊演習E-2(大)	院-50			サンسكريット語上級S[LSO]	文-133
し	塩野三恵子	かなI	文-27			サンسكريット語S[LSO]	文-203
		かなII	文-163			宗典講読S[LSO]	文-207
		条幅制作B(かな)	文-166			真言宗の教えA(別)	文-52
	柴谷宗叔	密教学特殊講義U	文-76			インド学講義(大)	院-3
		密教学特殊講義U[LSO]	文-76	富	田向真	宗教科教育法IV	文-194
		巡礼・遍路T	文-143		T.トライタン	宗典講読B[LS]	文-65
		巡礼・遍路T[LSO]	文-143			真言密教特殊講義D[LS]	文-83
		祖典講読I C	文-61			真言密教特殊講義E[LS]	文-84
	徐東軍	企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)	文-121			真言密教講読演習D[LS]	文-99
		企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)[LS]	文-121			真言密教講読演習E[LS]	文-100
		企画科目(中国語で仏典を読む)	文-122			密教学特殊研究C(大)[LS]	院-8
		企画科目(中国語で仏典を読む)[LSO]	文-122			密教学特殊研究D(大)[LS]	院-9
		企画科目(仏画S)[IP]	文-221			事相研究II-1(大)[LS]	院-23
			文-13			事相研究II-2(大)[LS]	院-24
す	鈴木晴久	密教学基礎ゼミB1	文-14			密教実践法の研究A(大)[LS]	院-36
		密教学基礎ゼミB2	文-13			密教実践法の研究B(大)[LS]	院-37
		国語学I	文-150	な	内藤栄	企画科目(仏教美術入門S)[IP]	文-220
		国語学II	文-151		中西雄泰	真言密教特殊講義A	文-81
		教育原論	文-180			真言密教特殊講義B	文-82
		教職入門	文-181			密教儀礼の理論と実習(別)	文-81
		教育課程論	文-185			密教儀礼の理論と実習(別)	文-81
		総合的な学習の時間・特別活動	文-187			密教特殊講義V	文-79
		国語科教育法I	文-195		那須真裕美	仏教学特殊講義V[LSO]	文-79
		国語科教育法II	文-196			博物館資料保存論	文-175
		教育実習の研究	文-199			博物館情報・メディア論	文-177
		教職実践演習(中・高)	文-200			仏教学講読A(大)	院-31
			文-1	に	西川哲矢	古文書解読A	文-146
そ	添田隆昭	空海の思想入門A	文-1			博物館資料論	文-174
	添野了	梵字悉曇S[IP]	文-204	の	野田悟	漢字I	文-26
た	高田綾子	キャリアデザインI	文-46			密教学演習A	文-102
		キャリアデザインII	文-47			漢字II	文-162
		キャリアデザインIII	文-48			篆刻	文-164
		キャリアデザインIV	文-49			条幅制作A(漢字)	文-165
			文-148			書道史(中国)	文-167
	竹村和也	現代の人権	文-148	は	橋本真人	布教A	文-24
		教養講義(人権論)	文-148			布教(別)	文-24
		日本国憲法	文-161			中国語I	文-136
		人権と福祉(別)	文-148			中国語II	文-137
つ	辻秀道	声明	文-22	ひ	東正訓	企画科目(産業心理学)[OD]	文-118
		声明上級	文-139		東真由美	企画科目(コミュニケーション心理学)[OD]	文-119
		声明(別)	文-22			企画科目(人間関係論)[OD]	文-120
		声明上級(別)	文-139			仏教学講読演習F	文-94
	辻・西山・岩田	布教B(詠歌)	文-25		平岡宏一	仏教学講読C(大)	院-33
		企画科目(詠歌上級)	文-127	ふ	藤井知枝	日本語A	文-9
て	テンジンウセル	仏教学講読演習A	文-91			日本語B	文-10
		仏教学講読演習B	文-92			企画科目(寺院経営入門)	文-117
		総合科目(仏教入門I A)	文-110	ま	前谷彰	密教学特殊講義A	文-77
		総合科目(仏教入門II A)	文-111			密教学特殊講義B	文-78
		総合科目(仏教入門I S)[LSO]	文-218			密教学特殊講義S[IP]	文-209
		総合科目(仏教入門II S)[LSO]	文-219			密教学講読演習S[IP]	文-212
			文-11			密教学特殊研究A(大)	院-25
と	土居夏樹	密教学基礎ゼミA1	文-11			密教学特殊研究A(大)	院-25
		密教学基礎ゼミA2	文-12			密教学特殊研究B(大)	院-26
		宗教史I	文-57				
		宗教史II	文-58				
		祖典講読I S[LSO]	文-62				

教員別索引

ま	松下 歩睦	企画科目(社会心理学)[LSO]	文-229	も	森本 一彦	企画科目(民俗調査B)	文-126
	松長 潤慶	祖典講読 I A	文-59			企画科目(地域連携)	文-128
		密教学講読演習A	文-88			ポランティア	文-141
		密教学演習F	文-104			社会学	文-147
		宗教科教育法 I	文-191			インターンシップ	文-170
		宗教科教育法II	文-192			教育社会学	文-183
		真言宗典講読I(別)	文-59			地域福祉B(別)	文-128
		仏教芸術の研究(大)	院-38			社会保障A(別)	文-147
		密教特殊演習D-1(大)	院-47			比較宗教の研究(大)	院-41
		密教特殊演習D-2(大)	院-48		森本 敦子	英語 I (再履修)[LS]	文-4
	松本 貴子	日本文化A	文-40			英語 II (再履修)[LS]	文-6
		日本文化B	文-41	や	山口 文章	博物館概論	文-172
		日本文化C	文-42			博物館経営論	文-173
		日本文化D	文-43		山口 隆介	博物館展示論[LS]	文-176
		日本文化E	文-44		山 添 正	企画科目(スーパーヴィジョン I)[LS]	文-223
		日本文化F	文-45		山 添 正	企画科目(スーパーヴィジョン II)[LS]	文-224
み	溝 渕 淳	社会福祉論	文-168		山本 和美	企画科目(マインドフルネス)[IP]	文-222
		社会保障論	文-169		山 脇 雅夫	宗教学宗教学史の研究(大)	院-39
		社会保障B(別)	文-168	よ	米田 弘仁	祖典講読 II B[LS]	文-64
		地域福祉A(別)	文-169			祖典演習A(大)[LS]	院-4
		密教学基礎ゼミC1	文-15			祖典演習B(大)[LS]	院-5
	溝 端 悠朗	密教学基礎ゼミC2	文-16	わ	和田 圭子	密教学特殊講義B	文-71
		国文法 I	文-152			密教学特殊講義C	文-72
		国文法 II	文-153			密教学科主任 導入研修	文-2
		日本文学史概説 I	文-154			密教学基礎ゼミF1(再履修)	文-19
		日本文学史概説 II	文-155			密教学基礎ゼミF2(再履修)	文-20
		日本文学 I S	文-156			加行 I	文-32
		日本文学 I S[LSO]	文-156			加行 II	文-33
		日本文学 II S	文-157			巡礼・還路S	文-142
		日本文学 II S[LSO]	文-157			大学院委員長 仏教特殊演習A-1(大)	院-55
		国語科教育法III	文-197			仏教特殊演習A-2(大)	院-56
	南 昌 宏	漢文	文-7				
		哲学S	文-36				
		哲学S[LSO]	文-36				
		漢文学概論 I	文-158				
		漢文学概論 II	文-159				
		中国文化特殊講義S	文-160				
		中国文化特殊講義S[LSO]	文-160				
		国語科教育法IV	文-198				
		アジア地域の宗教文化の研究(大)	院-40				
	宮田 永明	常用経典	文-21				
		常用経典(別)	文-21				
	宮本 直美	特別支援教育	文-184				
も	本 山 司	体育実技	文-140				
	森崎 雅好	心理学 I S	文-37				
		心理学 I S[LSO]	文-37				
		心理学 II S	文-38				
		心理学 II S[LSO]	文-38				
		密教学講読演習T	文-91				
		密教学講読演習T[LSO]	文-91				
		密教学演習O	文-109				
		企画科目(死生観)	文-129				
		企画科目(死生観)[LSO]	文-129				
		企画科目(グリーンケア)	文-130				
		企画科目(グリーンケア)[LSO]	文-130				
		企画科目(宗教間対話)	文-131				
		心の科学(別)	文-37				
		心の科学(別)	文-38				
		現代社会と宗教(大)	院-19				
	森本 一彦	密教学基礎ゼミD1	文-17				
		密教学基礎ゼミD2	文-18				
		キャリアデザインVIB	文-69				
		キャリアデザインVIB	文-70				
		密教学特殊講義D	文-73				
		企画科目(民俗調査A)	文-125				

講義概要・授業計画 令和6年度(2024)

2024年4月1日発行

編集・発行 高野山大学
〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385
T E L : (0736) 56-5027 (学務課教務係)
F A X : (0736) 56-5048
E-mail : kyomu@koyasan-u.ac.jp
U R L : <https://www.koyasan-u.ac.jp>
